

# コジマティック・スト ラトス

禿げ眼鏡(三十路)

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

白騎士事件から10年・・・その10年の間に

＼θ　＼大アクアビットである！

○

＼　　＼  
コジマの体現者が降臨した。

息抜きで作りました。反省なんてしません。

# 目次

	コジマ大帝☆降臨	
	コジマ大帝とガチホモ♂イケメン	1
	コジマ軍団の設定	6
10	コジ浴と織斑三姉妹とコジマビール	
	大帝様、日本にログイン	15
	レイレナード社の百合夫婦と娘とコジマと	23
	恐怖！大コジマ爆撃機！	31
37	恭一少年、コジマ色に目覚める	
	コジマ大帝と生徒会長とある家族と浪漫砲	42
	クラス対抗戦！コジマ大帝怒りの咆哮	(1) 48
	クラス対抗戦！コジマ大帝怒りの咆哮	(2) 56
	クラス対抗戦！コジマ大帝怒りの咆哮	(3) 68
74	フランス製大とつつき、短編仕立て	
	夏だ！海だ！コジマだ！	78
84	企業連最高評議会”正体判明”	

海上作戦―開戦―	90	ドイツの黒い鷲と黒兎隊	151
戦線―企業連 v s 機関―	96	大帝様と空中艦隊とG Aによる短編仕	
戦線―凶鳥達は解き放たれた―		立て大テクノクラートハラショー	
106		158	
海上作戦―決戦と終結―	113	第三帝国の復活と襲撃	165
ラウラちゃんお誕生日おめでとう!		v s 航空要塞	173
118		v s 敵戦闘機部隊	180
オペレーション・ラーズグリーンズ		決着! 航空要塞!	191
124		突入! アンデス要塞!	200
大帝様、アクアビットにご帰還&転生		アヴァロンダム急襲	209
者退治	134	A C E S and Z E R O	218
今さらながら登場人物の設定をばアツ	143	A C E S and Z E R O a c t	228
		2	





# コジマ大帝☆降臨

## コジマ大帝とガチホモ♂イケメン

ノルウェー アクアビット社

カツカツカツカツ

ヴァルター「社長が我々に呼び出しとはな・・・」

シャルル「なんでしょうね、新型のコジマ兵装のテストかな？」

私の名はヴァルター・クリューガー。ご覧の通りのアクアビット社員だ。そして隣が私の後輩のシャルル・デュノアだ。

我々は先程、トーラスのネクストIS、アルギユロスのプロトタイプを試運転してきたところだが・・・

ヴァルター「まさかとは思いたくはないがな・・・」

シャルル「多分先輩の考えと一緒にかもしれないでしょうね・・・3人目のイレギュラーが後になってホイホイ出てきたとか。」

可能性は無きしにも非ず・・・か。しかしその程度は問題にならない。むしろ問題なのは・・・

ヴァルター「もし3人目が出てきたらそいつは気の毒だな。」

この後輩、シャルル・デュノアが

シャルル「フフフフフフ・・・そうだね、僕のイノセンス（意味深）でケツ×××クス  
の  
膚にしてあげちやうからね。」

フランス産の最強ガチホモなのだ。デュノア社に可愛らしい妹がいるのに。哀れな  
り、3人目のケツ。

だが私には関係ない。私の優先順位は常にコジマだからな。ふははははは、コジマは  
美しかろう。

おや？正面から見覚えのある女二人とチビツ子1人が。

箒「む、コジマ大帝とシャルルじゃないか。」

クロエ「お久しぶりです大帝」

ラウラ「おひさしぶりなのだ！」

レイレナードの箒嬢とクロエ嬢、チビツ子ラウラじゃないか。

シャルル「久しぶりだね、ドイツ製銀髪レズw w」



おい、シャルルよ。開口一番がそれか。つか私もドイツ生まれだぞこの野郎。

クロエ「一年ぶりですね、フランス産まれのカチホモ野郎ww」

ガシツガシツガシツ！グッ！

シャルル「相変わらず強烈だね、戦友。」

クロエ「そちらこそ。」

お前から相変わらず仲が良いのか悪いのかよくわからん。

箒「はは・・(苦笑)」

見ろ、箒嬢が苦笑いしてるだろうが。

ヴァルター「ん？そういうええ何で3人が我等アクアビットに？」

箒「観光ついでに紅椿とヴァイス・ローゼのPA強化を。」

こっちはついでか。

ヴァルター「それよりもシャルルよ、社長が呼びだ。行くぞ。」

シャルル「行きますか。」

さてさて、社長が呼びだすると藪をつついて蛇が出るのか？それともコジマかな？コジマだったら大歓迎だな。ふははははは！

社長室

東「二人にはIS学園に行ってもらおうよ」

マジかよ……!

ヴァルター「かつての古巣に戻る訳か？」

東「そうだよ。3人目のイレギュラーが虎の威を借りたクズ野郎だからね、学園の皆を大帝とシャルル君の力で守ってもらおうと思つてね。あ、これが資料。」

ふむ、こいつか……貴志川恭一15歳……あー、コイツはヒドイ。

シャルル「うわっ……コイツ資産家の息子じゃん。自分の力で何も為していないのに親の力だけ頼りだけの最低野郎だよ。」

シャルルよ、お前もデユノアの社の令息だろう。

シャルル「先輩、僕は令息だけど経営が苦手だからアクアビットとデユノアのテストパイロットしているんです。シャルロットの方が経営者に向いてますよ。」

すまんすまん。というか私の心を読んだな。

ヴァルター「まあ良い。なら、我等のやる事は……只一つだな。」

シャルル「そうですね。」

ヴァルター「大アクアビットの為に！」

シャルル「クズ野郎を薔薇色にする為に！」

東「二人ともぶれないね〜（笑）」

さあ始めよう！我等のコジマで、企業の馬鹿息子に正義の鉄槌を下す！

かくしてコジマ大帝とガチホモは  
学園に舞い降りようとしていた。

## コジマ軍団の設定

ヴァルター・クリューガー(32)(CV堀秀行)

ドイツ生まれのアクアビット社員でありテストパイロット。初代ジークフリードにして最凶のコジマ使い。付いたあだ名が「コジマ大帝」「マジキチコジマ男」「地獄のコジマ皇帝」。コイツがコジマを撒き散らした後は皆コジマ信奉者になる。

というかコジマを撒き散らしてドイツをコジまみれにした。

彼はアクアビットとコジマこそ世界に標榜すべき力だと信じて疑わない。

彼にとってコジマとは性欲とかよりも最優先すべき存在である。

シャルル・デュノア(24)(CV宮野真守)

フランス産のガチホモ青年。デュノア社のテストパイロットであるが、現在は社外研修という形でアクアビットに出席している。反抗的な少年(容姿年齢問わず)を薔薇色(意味深)に染めるのが趣味であり特技。

しかし彼の性癖が原因でアクアビットに出席することに。

クロエ・ボーデヴィツヒとは仲が良いのか悪いのかよく分からない。

貴志川恭一(16)(CV神谷浩史)

貴志川商事（貿易関連の企業）の御曹司。最初は金さえあれば学園の生徒は靡くだろうとたか括っていたが、コジマの力に触れてからヴァルター達やアクアビットの社員達と仲良くなった。そしてシャルルとお付き合いすることに。

あと最近の恭ちゃん、自分の実家と手を切つたらしい。それも自分から。

愛機はコジマ爆撃機3号機、コッジーマウース。武装はエリタージユと同じ。

機体

コジマ・エンペラー

（CV若本）

アクアビットが産み出した狂気の産物その1。ISのシールドをモタコブと月光でガリガリ削る。そして背部兵装、アサルトキャノンで止めを刺す。別名コジマ爆撃機、略してコジ爆。

そして何より喋る。待機状態でも常に荒ぶる。一人称は我輩。マスターであるヴァルターに対しては我が主。アクアビットとコジマは正義の鉄槌にして神の力だと確信している。

エリタージユ

(CV石田彰)

アクアビットの狂気の産物その2。コイツもコジ爆であるが、コイツはコイツでトールス製のプラズマライフルを装備している。

マスター大好きな喋るネクストIS。しかし男だ。しかもイケボのオネエだ。一人称は私。マスターのシャルルに対してはご主人。

機体名の由来はゲランのメンズフレグランズから

アクアビット

コジマ・エンペラーとエリタージュを産み出した変態と変態の産みの親にしてアクアビットマンことランスタンの製造メーカー。コイツとトールスとアスピナとレイレナードとオーメルが手を組んだらドイツ生まれのマジキチとフランス産のガチホモが生まれた。一体どゆこと？

トールス

元凶その2。指向性ゼツフryもといコジマ粒子砲とアサルトアンプをコジマ大帝に渡した変態。現在トールスマンことアルギユロスの製造に着手中。

アスピナ

「穴ことソブレロの産みの親。コジマ爆発付きのオーバードブースターの提供した変態。ゲイヴンもといジヨシユアもいるよ！逆流もいるよ！」

オーメル

コジパンを大帝に渡した変態企業。仲介人がたまにイラツとくる。

レイレナード

アリーヤコアを提供した変態企業その2。コジマ大帝を世に送り出した後、アリーヤをリリース。

コジマ粒子

人を殺す毒は出ないけど、汚染したら毒電波を受信しやすくなる。というより、コジマ汚染患者（変態）が増えた。

## コジ浴と織斑三姉妹とコジマビール

コジマ大帝達が来日するまであと9日

### IS学園

私の名前は織斑一夏。IS学園の先生をやっています。今年は3人目の男性操縦者が入学するから唯でさえ大変な状況なのに……

一夏「え？アクアビットから二人が！本当なの、姉さん！」

千冬「ああそうだ……唯でさえ3人目の相手が貴志川商事の馬鹿息子だったのにアクアビットの問題児が二人も……」

アクアビットのコジキチ男とフランス製ガチホモ製造機がまたくるの？あの喋る若本ISとオネエISがくるの？あ……胃が……

一夏「うう……考えるだけで胃が痛い……」

千冬「私も同じだ……胃薬飲むか？」

一夏「うん……」



一夏です、胃薬と白式が現在のパートナーです。はあローゼンタールに帰りたい。帰ってトウルルーデちゃん達をPr Pr Prしたいです。

千冬「おい一夏、またローゼンタールに帰りたい顔をしていたな。」  
バレたし。いや仕方ないよ？

「コジキチ怖いもん」

一夏「つてマドカ！」

マドカ「うむ。驚かしてスマン。」

千冬「マドカ、お前もか。」

マドカ「コジキチ大帝は怖いが、当面の問題は……」

「「フランス製ガチホモ製造機」」

千冬「これに尽きるな……」

マドカ「ヤツに（性的に）食われた男が何人いるやら……」

哀れだよ、貴志川君の尻。食われたらその時はその時だよ。

マドカ「私も胃が痛い……」

一夏「嫌になっちゃう。」

本当にローゼンタールに帰りたい。

”イエイ！”

なんかガチホモシャルルの幻聴が聞こえてきた。

アクアビット社地下

B7コジマ浴場（コジマ超上級者向け）

ヴアルター「ヴアアアア．．．」

やはりコジマは良い。私の全身に染み渡る．．．コジマの美しさを知らぬ凡人共にはコジマ粒子とコジマ浴場の良さが分かるまい。

しかし困ったものだ．．．かつての古巣にはコジマ浴場はおろかコジマ入り入浴剤すらない。織斑三姉妹が全力で阻止してたからな。よし、後で売店で買いに行こう。ふはははは！入浴剤なら文句は言わんだろう！勿論私のだ！私だけの物だ！

いかんいかん、落ち着け私。深呼吸だ、深呼吸。

ヴアルター「コジー．．．マアアアア」

コジマ浴は私のオアシスだ、ココ（浴場）で荒ぶってはコジマに失礼だ。

よし、コジマ浴の後は特濃コジマビールを飲もう。折角だ、シャルルにも特濃コジマビールを飲ませるとしよう。勿論私の奢りだ。逃がさんぞ。ふはははははははははははははははは！



この後、シャルルは特濃コジマビールを浴びるほど飲まされた。

# 大帝様、日本にログイン

日本

羽田空港

ふはははははは！ ついに日本に戻ってきたぞ！ 日本よ！ 私は帰って来たああああああああ！

シャルル「大帝……早く行きましょうよ。」

むう、機嫌が良いところを……

ヴァルター「そんなに私特製のコジマチャーハンを食いたいようだな、シャルルよ……」

シャルル「すいません、許して下さい。何でもしますから（泣）」

ヴァルター「ん？ 今何でもするって？」

言ったよな？

エンペラー『我が主よ、些事なぞ捨て置けばよかろう。』

いかんいかん、アクアビットの大帝は揺るがない。

ヴァルター「仕方あるまい、行こうぞ……IS学園に。」

ふははははは！学園にコジマを撒き散らしに行くぞ！

エンペラー『撒き散らしにイクイクウウウ！』

シャルル「やめてあげてえ……」

その頃

大アクアビットでは

「やはりコジマビール（中濃）は旨い！」

「コジマのパウワアアがみなぎるううううう！」

東「やっぱりアクアビットの科学力とコジマは！」

「世界一イイイイイイイイ！」

なんか酒盛りをやっていた。

IS学園

ふははははは！10年振りだな！学園よ我等は帰って来たああああ！

一夏「……お久しぶりですね、Mr. コジキチ。」

そんな顔するな織斑一夏よ。折角の美人が台無しではないか。それにコジキチという言葉は私の誉め言葉だぞ。

一夏「誉めてませんよ。」

ふははははは！誉めてはおらんか！にしても私の考えていることが分かるのか？

ヴァルター「にしても・・・かつてのブリュンヒルデとヴァルクユーレと呼ばれた少女3人がな・・・大きくなつたなあ」

一夏「誉めているんですか？」

ヴァルター「当たり前だろう。」

一夏「コジキチに誉められても嬉しくない。」

ウソダドンドコドーン！

一夏「あ、そうそうガチホモシャルル君。」

シャルル「なんだい一夏。」

一夏「デュノア社の社長さんから伝言。」

シャルル「？」

一夏「面倒事起こしたら

女性だらけのフロアにぶちこむぞって」

シャルル「ヴォゥ・・・勘弁してくるえ・・・」

それはヒドイ。シャルルの奴には拷問だろうな。





## 入学式

恭一（ちつ！何で俺が・・・）

俺は貴志川恭一。貴志川商事の令息だよ。ふん、どうせ金に靡くような教師連中と女共だろ？金に勝るものない！俺は楽しんでこんな所からおさらばしたいんだよ！

「それではこれより、学園の新しく編入された講師をご紹介します。」

講師？ふんどうせどっかの女教師だろ？

「アクアビット社専属パイロットヴァルター・クリューガー先生、同社専属パイロットシャルル・デュノア先生、前へ」

アクアビットお？なんだ？どっかの中小企業かあ？つて男の名前え？

「アクアビット・・・！」「あのコジマエネルギー企業の・・・」

他の女連中は知っているのか？ん？待てよ、確かコジマエネルギーつて

ヴァルター「紹介賜ったアクアビット社のヴァルター・クリューガーだ。この学園のOBだが、新入生及び在校生諸君宜しく頼む。それから“彼”が私の相棒、コジマ・エンペラーだ。」

「凄い・・・コジマ大帝よ！」「初代と2代目ジークフリードじゃない！」

ジークフリードつてマジかよ！

それにしてもあのネズミ？みたいなのが相棒？あの優男じゃなくてか？

エンペラー『我輩が……コジマ・エンペラーであるうううう！我が主の半身であああある！』

んな！喋つ……『キエエアアシャベツタアアアアアアアアア！』  
うるせつ！

ヴァルター「ふははははは！元気があつて宜しい！」

しかしなんだよこのオッサン……

シャルル「えくと、同じくアクアビット社のシャルル・デュノアです。僕も頑張りますので、皆さんよろしくお願いしますね……」

デュノア……つておい！フランスのＩＳメーカーじゃないか！何でこんな所に！  
シャルル「んでこつちが……」

エリタージュ『僕がご主人のパートナー、エリタージュだよん？よろしくねえ？』  
『キエエアアア！マタシャベツタアアアアアアアアアアアアア！』

オカマかよ！いや意味わからねえ……マジわからねえ

ヴァルター「さて、諸君……私達が勤めているアクアビットを知っているかね？」  
思い出した！確かコジマ粒子のコントロールを成功したエネルギー開発企業の第一

人者じゃないか！

つか周りの半分以上の女連中が手をあげてやがる！

ヴァルター「ほう・・・我等大アクアビットを知っている女子生徒が多いな・・・よく分かつているじゃないか。」

なんだよコイツら・・・

ヴァルター「諸君！私はここに誓う！君達はまだ卵の殻が取れていない雛鳥である。私はコジマ大帝の名にかけて、君達を一人前にする！諸君等も知つての通り卒業すれば企業のテストパイロットや軍属になるであろう！勿論整備に回る者もいる！」

君達は努力を怠るな！勿論我々として例外ではない！自らの努力が実つたその時、我等が大アクアビットとコジマは君達の努力に

微笑むだろう。」

ケツ！本当かよ・・・

『うおおおおお！』『オールハイルコジマ！オールハイルコジマ！』

マジかよ・・・

その頃の大アクアビット

「ふつくしい・・・」「やはりコジマは素敵だ！大好きだ！」

東「我が大アクアビットの科学力の結晶であり誇りであるうううう！」

「ドレッドノート・コジマの完成だ！」

酔った勢いで頭がおかしい変態ISを完成させていた。

次回に続く！

# レイレナード社の百合夫婦と娘とコジマと

ドイツ シュトゥットガルト

土曜日

ドイツ時間

4:40

箒「んく……よく寝た。」

私は箒・S・ボーデヴィツヒ。レイレナード社の専属パイロットだ。

チユツ

箒「んっ」

クロエ「おはよう、箒。」

彼女はクロエ・ボーデヴィツヒ、私の愛する夫。彼女もレイレナード社の専属パイロットだ。

箒「ああ、おはようクロエ。」

クロエは相変わらず綺麗だ。15のときは私より小さかったが、17になってからか

な？私の身長を追い越したのは。

クロエ「箒、早く起きたけどもう一回寝る？」

箒「いや私は朝食の支度をしてくる。」

クロエ「あら、残念。ラウラが寝てる間くらい楽しい時間を過ごしたかったのに。」

箒「まあ、そう言うな。」

クロエ「・・・」

ん？どうしたのだ？

クロエ「箒との素敵な時間くらい欲しいのに・・・ちよつと寂しい。」

か・・・可愛いじゃないか。

箒「そうだ！折角だし三人で何処か行かないか？」

出かけるなら公園か。ならお昼の支度もしとこうか。

ラウラ「うゝ・・・」

む？ラウラが起きたか。

ムクツ

ラウラ「おはよゝ」

「おはよう、ラウラ。」

この子はラウラ。私が産んだ二人の愛の結晶。私とクロエの愛する大事な宝だ。

ラウラ「箒ママ、クロエママおはよう。」

ふむ、やはりラウラは可愛いな・・・流石私達の娘だな。

クロエ「ラウラ、お昼からお出かけする？」

ラウラ「お出かけ！行く行く！」

箒「三人で近くのレストランに行くか？」

ラウラ「レストラン！やったー！」

ふふ、朝から元気だな。あ、朝食を作らなきや！

その頃の我等の大アクアビット

「やはりふつくしい・・・」  
「コジマの光がギユインギユイン唸るううううう！」

東『ドレッドノート・コジマのおおおおおおお！』

「『ダブルコジマブラスタアアアアアアア！』」

ズドオオオオオオオン！

※ドレッドノート・コジマのテストは東自らやっています

東『いいいいいやっほおおおおおおお！』

「社長さいこおおおおおおう！」

東『大アクアビットの科学力はあああああああ』

「『世界—イイイイイイイ—』」

東『コジマに不可能はなああああああ！』

変態は行くくよくどくこまくでもく。

10:30

今から三人で近くの公園に行くことにした。近くにレストランもあるから、ラウラも喜ぶだろう。

ラウラ「お出かけお出かけ♪ママ達くとお出かけ♪」

クロエ「ほらほら慌てちゃダメよ、ラウラ。」

ラウラ「はい！」

慌てなくても公園は逃げないぞ、ラウラ。ふふ・・・やはり子供は元気が一番だな。

箒「戸締まりもガスもOK。行こうか。」

クロエ「ええ。」

ラウラ「おー！」



その頃のトールラス

「アルギュロスが完成しました!」「よくやった!」

「よし・・・アサルトキャノンを取っつけるか!」

「yes! yes yes yes!」

「緑色に染めるか!」

「yes yes yes!」

「いっそのこと、我等の大帝と同じカラーリングにしちゃうか!」

「yes yes yes!」

「我等のコジマは!」

「世界一イイイイイ!」

トールラスは緑色のアルギュロス、その名も真コジマ爆撃機、コジ☆ギュロスを完成させたそうな。

11:00

今日は晴天、見晴らしの良い場所だ。今の時期はいろんな花が咲き乱れ、ラウラも夢中になるほどの綺麗な景色が広がる。

ラウラ「わくスゴくきれ〜！」

クロエ「ええ、本当にね。」

花も綺麗だが、二人も綺麗だ。ラウラは向日葵のように明るく、クロエは薔薇のように可憐だ。

ラウラ「箒ママ！ぼっぼさん乗りたい！」

あの子供サイズの機関車か？

箒「三人で乗る？」

ラウラ「ママ達と乗りたい！」

クロエ「じゃあ一緒に乗ろう。」

ラウラ「わーい！」

可愛いなあ、もう。なでなでしちゃいたい。

ラウラ「ママ達とぼっぼさくん♪」

今日は良い一日になりそうだ。

16:55

ラウラ「スウー スウー・・・んう・・・」

元氣いっぱいあそんだな。さすがにラウラも疲れて寝てしまったな。ラウラは私が

おんぶしている。

クロエ「ふふ、箒お疲れ様。」

箒「クロエこそお疲れ様。」

クロエ「ラウラの笑顔が私達の活力だもの、これくらい苦にもならないわ。」

箒「そうだな、私達二人が守るべき家族だ。」

私達の大事な娘、私達の大事な命だ。

19：40

家に帰ってからラウラを部屋のベッドに寝かせてから少し遅い夕食を取っている。

「お疲れ様」

カチン

箒「ラウラは？」

クロエ「ぐっすり寝ているわ。」

そりやそうだな、あれほど遊んだからな。

クロエ「ご飯の後はどうする？私と一緒にお風呂？それとも・・・」

さ・・・誘っているのか・・・

ラウラ「ママ・・・お腹しゅいた〜」

ラウラ、起きちゃったか。

箒「一緒にご飯食べる？」

ラウラ「うん・・・」

クロエ「ご飯食べたら一緒に風呂入ろう。」

ラウラ「入ろう」

一緒にご飯食べて、一緒にお風呂に入って、一緒に時間を過ごす。いずれ終わりは来るだろう。だけど私達の大事な家族と過ごす日々・・・

とてもいとおしく、そして幸せだ。

# 恐怖！大コジマ爆撃機！

セシリア side

はじめまして、私はセシリア・オルコット。イギリスの代表候補生でGAグループ傘下の企業、BFF所属のパイロットですわ。

従姉妹にBFFの女帝でありイギリス国家代表のリリウム姉様がいますの。

私のクラスには運が良いのか悪いか分かりませんが、3人目の男性操縦者、貴志川恭一さんがいます。

「大アクアビットであああある！」

さて、皆様に問題です。何故コジマ大帝の雄叫びが聞こえるのでしょうか？

正解は……

2対1の鬼ごっこ（鬼はコジマ大帝）中だからですわ☆

※何故こうなったかというと

恭一「勝負しろ！マジキチコジマ！」

コジ帝「良いだろう。」

セシリア「私も混ぜて下さいまし。」

コジ帝「なら鬼ごっこだ。私が鬼だ。」

どうしてこうなった。

恭一(ラファール)「うおおおおお!コジマこええええええええ!」

おやおや、動きが稚拙ですわね。まるで坊やみたいですよ。

恭一「おいオルコット!お前代表候補生だろ!なんとかしろ!」

あら失礼な殿方ですわね。

セシリア「なんとかしたいのは山々ですけど、レーザーを撃つても」

バシユン!バシユン!

ドヒヤアドヒヤアドヒヤア!

セシリア「ライフル撃つても」

タン!タン!タン!タン!

ドヒヤアドヒヤアドヒヤアドヒヤアドヒヤアドヒヤアドヒヤア!

ヴァルター「ふはははははは!当たらなければどうという事はないのだ!はっはっ!」

セシリア「ブーストで避けるから手の施しようがありませんもの。」

恭一「マジかああああ!」

ま、私としては大帝との勝負を望んでいるのですが。おや？上に？  
ヴオオオオオオオオオオオオオオオオ！

この音は……

「ジエ・・・ジエリコのラッパ！」「スツーカー！スツーカーが来た！」「コジマ爆撃機  
だああああ！」

やはり来ましたか……急降下コジマ爆撃！

恭一「なつ、なんだこの音は……！」

さすがにこればかりは……仕方ありません、彼は無視して逃げの一手ですわ！

恭一「ちよおま！」

ヴァルター「喰らえ！大コジマダイブボンバー！」

ギユイイイン……

ズドオオオオオオオオ！

恭一「イ”エ”アアアアアアアア！」

あ、墜ちましたわね。

「恭一君が死んだ!」「こーの人でなし!」「

死んではいせんわ。って大帝はいずこに!

ヴァルター「私なら此処だあああ!」

セシリア「いつの間に!」

しまった!後ろに!

ヴァルター「這いよりますよ!

コオオオジ☆パンチイイイ!」

ズドオオオン☆

そんな・・・この私が・・・

セシリア「ぶ・・・ぶっちやけありえなく・・・」

いやまさか後ろを取られるとは・・・恐るべし、コジマ大帝・・・

セシリア side end

※説明しよう!コジ☆パンチとはオーメル・サイエンステクノロジー社のコジマブ



レードKB—0004の事で、殴ったら大コジマ爆発が起きるぞ！たまないだろ！

ヴァルターside

やはりコジマはふつにくい・・・コジマ爆撃は素敵だ！大好きだ！

ヴァルター「ふむ、なかなかの回避性能だったなセリア・オルコットよ・・・しかしコジマには勝てなかったようだな。そして恭一少年！まだまだ私や代表候補生達には及ばないが、お前には素質がある！追い付きたければ訓練に励むがよい！」

お前がコジマの力に目覚めたその時こそ、コジマの光が少年に祝福するだろう。

ヴァルター「馬鹿息子のままでは終わらせんぞ、貴志川恭一よ。」

そして私はクールに去るぜ。

ヴァルターside end

このあと織斑三姉妹に滅茶苦茶ハリセンで叩かれた。

「「このコジキチ！」」

ヴァルター「あぶち！」

ムクツ



# 恭一少年、コジマ色に目覚める

4月10日

実践練習の日、男性操縦者用更衣室で二人の肉体を見てしまった。コジマ野郎はともかく、あのフランス人先公の肉体は見た目以上に鍛えていやがる。

なんだよあれ！まるで彫刻じゃないか！

あれ？何で俺はフランス人の身体に見とれてた？同じ男なのに・・・

4月11日

今日も実践訓練だ。相変わらずの肉体だ・・・何でだろう。同じ男なのに・・・見て  
いるだけで興奮してきた・・・

4月12日

昨日コジマを喰らってしまった。死んだかと思っただけど、シャルル先生に助けられて  
から・・・その・・・シャルル先生に

惚れてしまった・・・



恭一「シャルル先生！今日もお願いします！」

シャルル「ああ、勿論。」

恭一「あ、大帝！お疲れ様です！」

ヴァルター「恭一少年、今日も頑張っているか？」

恭一「はい！勿論です！」

ヴァルター「慢心は己を滅ぼす。君も頑張りたまえ。」

エンペラー『卿の努力は、無駄にはならん。学園と我等のコジマの為に頑張るがよい。』

恭一「ありがとうございます！」

俺、貴志川恭一！今日も元気だぜ！コジマさいこおおお！

大アクアビット

東「諸君！3人目が遂に我等大アクアビットに導かれた！」

「我等の大帝がやってくれた！」「流石大帝！」

「そこに痺れる憧れるう！」

東「そこで・・・彼に新しい機体を贈呈したいと思うの」

「あれですか？トーラスの作り上げたコジ☆ギユロスですか？」

東「ノンノン・・・コジマ・エンペラー、エリタージュに続くコジマ爆撃機3号機・・・

コッジーマウースの御披露だ。諸君、派手に行こう。」

「「うおおおおおおおおお！」」

見た目はエンペラー！白いカラーリングのコジマネズミ！アクアビットとトーラスの最強兵器！その名は

コジマ爆撃機3号機、コッジーマウース！

※4号機はドレッドノート・コジマ（東の専用機）

東「我等のコジマはあああああ」

「「世界一イイイイイイイ！」」

そしてこの後、コジマ色のニンジンロケットに乗った東が学園に直接行って恭一に

コツジーマウースを渡したのは言うまでもなかった。

恭一「いいいいいやっほおほおほおほお！抱きしめてあげるよおほおほお！」

おまけ

一夏「また・・・またコジマなの？」

ボン

千冬「一回ローゼンタールに帰るか？」

一夏「うん・・・」

マドカ「姉さん・・・」ホロリ

真耶「一夏先生・・・」ホロリ

一夏は1週間程ローゼンタール日本支社に戻ってドイツ人の恋人のゲルトルート

(♀)とイチチャイチャしてた。

## コジマ大帝と生徒会長ととある家族と浪漫砲

その1 生徒会長とコジマ大帝と

あ、ドーも。更識楯無でーす。私のことはたっちゃんて呼んでくれたら嬉しいな。え？呼ばない？あ、そう（ω・ω・ω）

私生徒会長なんだけどね、目下の悩みが・・・

楯無「書類が多い・・・」

だって、企業の跡取りとか企業の跡取りとか・・・二人もいるし、なによりコジマの王様がいるし・・・

”王様ではない！大帝である！”

楯無「・・・」

気のせいよね？

”大帝である！”

気のせいだよね？

”大帝であああある！”

・・・



”ぶるあああああう!”

アーアーキコエナーイキコエナーイ!

”・・・”

終わつたのかしら?

”To Nobels welcome to the KOZIMA”

楯無「何今の無駄に綺麗な発音!」

何なのよ、腹立つわ。独語圏の人なのに英語なのが腹立つわ。

もう・・・嫌になってきた、逃げ・・・

グワシ

虚「会長?」

楯無「え、あ・・・虚ちゃん?」

やべ、見つかつちやつた・・・

虚「何処へ行くんですか?」

ゴゴゴゴゴゴ

楯無「えつと・・・気分転換?」

虚「許しません。」

み”や” ああああああああああ!

シャルル「何か猫の断末魔が聞こえたような・・・」

恭一「多分気のせいかと・・・」

シャルル「だよね」

「H A H A H A H A H A H A H A H A H A ☆」

”大帝であああああある!”

「!!」

恭一「今のって・・・」

シャルル「うん、大帝のテレパシー・・・」

恭一「あの人マジでそんな事ができるんすか!」

シャルル「うん、マジ」

恭一「大帝すげ」

その2 とある一家の仲良しな風景

ラウラ・ボーデヴィツヒ、五歳です! 箒ママとクロエママが大好きです!

箒「ラウラ〜ご飯だよ〜」

ご飯！

ラウラ「はーい！」

ママのご飯〜ご飯〜♪

—

—

—

もきゅもきゅもきゅもきゅもきゅ

箒「美味しい？」

ラウラ「うん！」

箒ママのご飯は美味しいのです！

クロエ「あらあら、口元が汚れちゃって・・・」

ラウラ「う？」

箒「ご飯は慌てなくても逃げないよ。」

ラウラ「はーい♪」

今日もママ達は綺麗なのです。

その3 有澤の大グレ

私は有澤重工社長、有澤隆文だ。我が社はG A傘下の企業の一つでI S用グレネードランチャー、専用炸薬、国内の戦闘車両の大半を製造している。

アクアビットは我が社（というよりG A）の競合企業ではあるが、別に険悪という訳ではない。方向性こそ違えど浪漫を追い求めている・・・と言わべきか。

それはさておき、我が有澤重工に一人の少女が来ていた。

隆文「・・・我が社に、いや・・・私に何か用かね

G A専属パイロット、更識簪。」

簪「有澤社長・・・有澤重工の最強グレネード・・・完成してますか？」

やはり、この少女・・・我が社の社員と私と同類だ。

隆文「あれが欲しいのか？」

更識簪・・・我が有澤の浪漫を

簪「ミサイルは漢達の浪漫、そしてグレネードは浪漫を通り越して（神）の力でです。」

理解しておる。なんとも剛毅な少女だ。

「・・・・・・・・」

隆文「やはり君は我が社の浪漫を理解している。持って行くがよい。」

簪「ありがとうございます！」

隆文「有澤重工は浪漫を追い求める者の味方だ。使ってくれたまえ。」

簪「はい！」

後に更識簪は有澤重工の社長砲ことO I G A M I使いとして勇名を馳せる事になる。

更識簪はこう言った。

「撃てば爆殺当たれば粉碎。放たれる弾は浪漫なり」

後のモンド・グロツソでこの名言を残すことになる。

# クラス対抗戦!コジマ大帝怒りの咆哮 (1)

5月

ヴァルター side

今日はクラス対抗戦。各クラス代表が覇を競いあう。見てる者達も選手達も血肉湧き踊るといふことは間違いないだろう。

それに今回はIS関連企業の代表、最高幹部クラスの人間が来賓として来ているからな。私は今、来賓席へ向かっている。

東「大帝!お久!」

来賓席にいたか、社長。

我等大アクアビットの社長、篠ノ之東は勿論の事だがBFFからリリウム・ウォルコット、GAからローディー・クルーガー、有澤重工から社長の有澤隆文、デユノア社から社長夫人のマリー・デユノア

他の企業の代表は都合がつかなかった故に来れなかったが、どの企業も世界を席卷する名だたる企業ばかりだ。

リリウム「お久しぶりでございます、大帝。」

ヴァルター「久しぶりだな、リリウム嬢よ。」

リリウム・ウオルコット。G A傘下の企業、B F Fの現女王

。シャルルの同期で、若かりし頃からイギリスの国家代表とB F Fの代表を勤めている。

ローディー「6年振りかな、君に会うのは。」

ヴァルター「でしような。」

彼はローディー・クルーガー。G Aアメリカの最高幹部。元々G Aが大企業にのしあがる前からの古参幹部の一人。

隆文「ヴァルターよ。」

ヴァルター「何でしょうか？」

隆文「更識の妹が最近来たぞ。」

ヴァルター「何しに？」

隆文「大グレの引き取りに。」

ヴァルター「社長砲・・・だと・・・」

有澤隆文。G Aアメリカ傘下の企業の一つ、有澤重工の現社長だ。有澤重工も我等大アクアビットに負けず劣らずの変態企業だ。

しかし大口太くて固くてでっかい径グレ浪ネード砲ランチャーを完成されるとは・・・恐るべし有澤。

「マリー「お久しぶりですわね、大帝。うちの息子がいつもご迷惑をおかけして。」  
ヴァルター「いやいや、彼は相変わらず面白い男ですよ。」  
彼女はマリー・デュノア。デュノア社々長夫人で、シャルルと妹のシャルロットの母だ。デュノア社に出向してた頃はよくお世話になったものだ。」

社長夫人と言っても彼女は会社の経営に口を出す訳でも人事権を握っている訳ではない。彼女はあくまで専業主婦だ。

公の場に出るのは社長……いやアレクサンドルの親父さんの仕事だが、社長がフランス企業運動の会合に出席する予定と重なってしまい彼女が来日した。珍しいことも有るものだな。

マリー「来月頭にはシャルロットが転入しますので、宜しく願います。」

ヴァルター「少々厳しめですが、宜しいので?」

マリー「私達の娘とはいえ、いずれ大人になります。大帝、いえ学園の先生達の指導ならば……」

ヴァルター「分かりました。その役目、承りましょう。」

いずれ大人になる……か、なかなかいい事を言うものだな。

東「ねえ、試合始まつちやうけど見ないの?」



社長エ・・・頼むから空気読めよ。  
 ヴアルターsideend

※へ一年生の部

第1試合

1組代表 貴志川恭一（コツジーマウス）

vs

2組代表 鳳鈴音（炎龍）※BFF所属

第2試合

3組代表 中嶋玲（ラファール・リヴァイヴ訓練機仕様）

vs

4組代表 更識簪（打鉄・参式）※GA所属

鈴side

おつす！私鳳鈴音！BFFのIS乗りだよ！今から試合なんだけどね、凄いワクワクしてるの！なんせ三人目の男性操縦者が私の相手なのよ。

ただセシリアが出ないのはちょっと残念だけどね。

まだ素人だろうけど、あの大帝の秘蔵っ子だと聞くの。しかもアクアビットマン乗りじゃない!

本腰入れてかからないと、喰われちゃうわ。

《只今より、第1試合を開始します!選手は発進して下さい》

よし、全力で行くわよ!

鈴「鳳鈴音!炎龍、行きます!」

鈴 side end

恭 side

恭「あれが・・・BFFの炎龍か。」

凄いな、BFFとローゼンタールのフレームを組み合わせた機体か。

だが、俺も負けていられない!クラス代表になった以上、全力でやるだけだ!

《試合開始!》

鈴「先制するよ!食らえ!」

シユビシユビシユビ！

シユパアアアアアアアアア！

うげ！上と右側面からミサイル！しかも上のミサイルは分裂か！

恭一「くっ！」

タタタタタタタ！

くそ！右側面からのミサイルが！

ドカンドカンドカン！

恭一「ぐううううう・・・」

ちい！こちらのAPが1割持つてかれたか！

鈴「でええええええい！」

ミサイル発進の後直ぐ様レーザーブレードで追撃か！流石企業所属のパイロット、伊達ではないか・・・だが！こちらも！

恭一「うおおおおおおお！」

レーザーブレードで近接戦闘に持ち込む！

ズドオオオオオオン！

恭一「！」

鈴「何、今の爆発・・・」

一体何が・・・

恭一 side end

ヴァルター side

※試合開始直後

来賓席入り口付近

何か感じるな・・・私の逆鱗に触れる何かが・・・

エンペラー『主よ・・・何か感じないか?』

エンペラーよ、やはりお前もか・・・

ヴァルター「ああ、感じているさ。試合開始から私の怒りに触れる何かの存在を・・・」

エンペラー『主と我輩の知っている臭い・・・こいつは・・・』

そうだ・・・これは・・・



## クラス対抗戦!コジマ大帝怒りの咆哮(2)

東 side

あゝ大帝どつか行つたね。てことは何か動きがあるね。

東「ねえみんな・・・」

何か感じない?何か具体的には言えないけどさ。」

ローディー「東もか。」

流石ローディー先生!よくわかってらつしやる!

隆文「奴が動いた・・・という事は」

リリウム「ええ、何か一波乱起きそうですね。」

マリィ「私には判りませんが・・・」

マリィママには判らないかく仕方ないね。一般人だもん。

東「とりあえず奴さん来たら落ち着いて避難誘導しますか。」

隆文「仕方あるまい。」

ローディー「リリウムよ、動けるか?」

リリウム「問題ありません、ローディー様。」

流石リリウムちゃん！カッコいい〜！

隆文「王小龍はリリウム嬢に怒らないのか？」

リリウム「怒る訳ないでしょう。セシリアと鈴はリリウムの妹と同じです。それに二人に何かあつたら王大人が怒りで犯人を本気で殺しに行きますよ。」

隆文「そうだったな、まあ・・・奴がいるのに鼠風情が迷いこんだ時点で詰んでいるがな。」

あゝ王のじーちゃんならやりかねないね〜

にしても社長も酷いわ〜ww当然だけどww

ズドオオオオン！

ありやりや来ちやつたわ〜(棒)恭ちゃんと鈴ちゃん早く待避した方がいいと思うね。

東「んじやくマリーママは私と行こ〜！」

マリー「た、東ちゃん！慌てちゃダメよ！」

東「大丈夫大丈夫〜」

だって大帝がいるもん。それにさ、気に食わないんだよね〜

不細工なあんな粗大ゴミと粗大ゴミを造ったゴミ虫がだよ。見つけて、追い詰めて、肥溜めにぶちこんでやるよ……大アクアビットと企業連合の恐ろしさを精々思い知ることだな。

東 s i d e e n d

シャルル s i d e

ヴー! ヴー! ヴー!

警報が鳴りはじめた……たく、こんな時に……ん? あれは……真耶さん!

真耶「皆さん早く! 慌てないで避難誘導に従って動いて!」



シャルル「山田先生！」

真耶「デュノア先生！」

シャルル「状況は？」

真耶「半分以上の生徒の避難しました。ただ残りの生徒の避難がまだ……」

シャルル「そうですか……」

《シャルルよ……》

先輩からの通信？

シャルル「どうしました？」

《今の状況はどうなっている》

シャルル「半数以上の避難が出来たようです。僕の見立てではあと5分あれば生徒の避難が完了します。」

《結構……生徒達の避難が完了次第私の援護に來い。》

シャルル「まさか、先輩自ら！」

《何か不満でも？ただでさえ一刻の猶予もないのに、私に下らない意見をする暇があるのか？》

《…小僧。》

ぞわぞわぞわっ！

シャルル「も、申し訳ありません！」

やべえええええ！大帝様、物凄い機嫌悪いよ！音声だけでビビらせるってどんだけだよこの人！

《…まあ良かろう。鈴嬢と恭一少年の撤退支援は彼女達がやっている。完了次第、ピットに來い。即時戦闘を開始する。遅れるなよ？》

シャルル「了解しました！」

《ではな。》

ふう…やはりこの人には勝てないわ。

真耶「シャルル先生？」

あ、いけない。真耶さんほったらかしだった。

シャルル「どうしました？」

真耶「生徒の避難が完了しました。」

思ってたより早いな。

シャルル「では真耶さんも早く避難して下さい。僕は大帝と合流します。」

真耶「判りました。シャルル先生もご無事で。」

タタタタタタタ！

急がねば！

シャルル side end

side

「きやはははは！面白い！こんな楽しいゲームは初めてよ！」

「いかがですか？我が兵器開発部の新型対IS兵器、ゴリアテの性能は？」

「最高よ！ISなんて目でもないわ！」

「なにが天才よ！なにがコジマ大帝よ！そんな安っぽいモンとロマンなんてお遊びに

もならないじゃない！」

「それは何よりです。」

さあ早く出てきなさいコジマ使い!もっと私を楽しませてちょうだい!

??? side end

ヴァルター side

なるほど・・・あれが侵入者か。IS・・・いや、あんな不細工なIS擬きを社長や大アクアビット系列が造るわけがない。

ヴァルター「どこのどいつが造ったか知らぬが・・・まあ、関係ないさ・・・」

どのみち叩き潰すだけだ・・・

ヴァルター「シャルルに悪いが・・・先に行くぞエンペラー・・・」

エンペラー『我等の力で!コジマの鉄槌を下す!』

ふははははははは!我等の力を畏れよ!

ヴァルター「ヴァルター・クリューガーだ。コジマ・エンペラー出撃<sup>で</sup>ぞ!」

ヒュウオオオオオ

ギユウウウウウウ!

ヴァルター side end

一夏 side

タタタタタタ！

ドウ！ドウ！ドウ！ドウ！

全身装甲型の機体：．．ローゼンタールや他の企業とは違ってセンサーが剥き出し：．．  
その上、明らかに人型とはかけ離れた巨大な4本の腕．．．

一夏（明らかに無人機か、何かだよね．．．）

それに戦術ビーム兵器を持っているなんて、正直驚きだよ！

ドウ！ドウ！ドウ！

一夏（ビームの威力が高いみたいだね！攻撃パターンが単純みたいだけど、あの大型のアームで殴られるかもしれない。あまり迂闊に近づけない！）

一夏「マドカ！鈴ちゃん達は撤退した？」

マドカ「無事離脱した！大帝が到着次第、私達も離脱する！」

無事離脱したわね．．．だけど何で学園に襲撃なんて事を？貴志川君？シャルル君？

まさか、あの機体の狙いは大帝！

《よくぞ持ちこたえた！織斑マドカ、ラズドグリーズ、ラースグリーズ織斑一夏よ！》

大帝が到着した!

《後は私に任せたまえ!》

おそらく大帝はあの機体の狙いを看破しているかも・・・

マドカ「姉さん!」

一夏「わかった!大帝、ご武運を!」

《無論!》

大帝、ご無事で!

一夏sideend

ヴァルターside

ヴァルター「さて・・・そのデカイの、私の相手をしてもらおうか。」

にしても不細工だな。巨大な4本の腕、剥き出しの4つのセンサーカメラ、単体が持つには大分不釣り合いなビーム兵器・・・兵器にしては気色悪い。

ザザー!ザザー!

む?

《きやはははは!聞こえてる?コジマ使いさん?》

ヴァルター「誰だ貴様・・・」

《名乗るほどの者ではないけどお、IS殺しの機関員とでも名乗っておくかしら？きやはははは！》

声からしてまだ小娘か・・・そして機関員？どこかの機関の人間か。

《とりあえずゲーム感覚であんたと篠ノ乃束を殺しに来たの。だからねえ

死んでくれる？なーんて！》

ゲーム感覚でだと？殺しをゲーム感覚でやるだと？

私はともかく社長をゲーム感覚で殺しに来ただと？

舐めてるのか・・・

ヴァルター「雌豚風情が・・・ぶち殺すぞ」

《ひい！》

ほう？おどけてた割にはこの程度の殺気で怯えるか。所詮は小娘か・・・

《ゴリアテア・さっさとあいつを殺せ!》

ヴオオオオオオオオオオオオオオオオ!

情けない。殺気を当てられた程度でボロを出すとは・・・

エンペラー『所詮はただの小娘・・・我等との格の違いを身を以て知るがいい』

ヴオオオオオオオオオオ!

ドドドドドドドド!

猪突猛進とは・・・愚かな。我がアサルトキャノンの一撃で

ヴァルター「沈むがよい」

ギユウウウウウウウ

ズドオオオオオオオオオ!

『ギ・・・ガガ・・・』

がしゅん!

《ピー・・・ザザ・・・》

墜ちたか・・・



《大帝！遅れました！》

シャルルか。

ヴァルター「ちよつと遅かったな・・・終わったぞ。」

《申し訳ありません、大帝》

ヴァルター「よい。我が一撃で沈む程度の機体だ。手こずるほどではなかった。」

《ではその機体を回収しましょう。襲撃者の手掛かりがあるかもしれません。》

ヴァルター「わかった。千冬嬢に頼んで回収班を編成してもらおう。」

《既に織斑先生に連絡してあります。》

ほう・・・これを見越して連絡しておったか・・・根回しが早い奴だ。

ヴァルター「わかった。では我々は学園の周辺の警戒をしよう。」

《判りました！》

さて・・・あの機体を回した機関とやら・・・

我々を攻撃した事を後悔するがよい。

## クラス対抗戦!コジマ大帝怒りの咆哮(3)

ヴァルター side

学園地下区画

我々は今、件の機体の解析の立ち会いの為に地下区画にいる。立ち会いの面子は

ローディー氏、有澤社長、束社長、リリウム嬢、マリーさん、織斑三姉妹、山田先生、シャルル、そして私だ。

ローディー「さて、何が出てくるやら・・・」

隆文「中身が機械なのか・・・それとも、別の何かか・・・」

千冬「少なくとも、ろくなモノではない事は確かだとは思いますが。」

確かにな・・・

真耶「では・・・外装を外します。」

一体何が出るやら・・・

真耶「外装外し・・・ひっ!」

ローディー「むっ・・・!」

隆文「・・・愚かな・・・」

マリー「こんな・・・何でこんな事を！」

一夏「うう・・・！」

マドカ「一夏姉さん！」

シャルル「一夏ちゃん、無理しないで！」

真耶「・・・酷い」

リリウム「なんて事を・・・」

千冬「これが・・・人間がやる事か・・・！」

奴ら・・・越えてはならない一線を越えたか・・・

子供を

それもまだ10代すら越えていない子供を・・・

機械の部品にしやがった！

一夏「何で・・・何でこんな小さな子供を・・・酷いよ・・・うああああん！」

千冬「一夏、これ以上見なくていい！一夏・・・！」

東「いつちゃん!いつちゃんが辛いのは判るよ!だから無理しないで!」

マリ「私達がいるから、一夏ちゃん……!」

「気持ちは判るぞ一夏嬢。機関という奴等は人間の命を部品程度にしか考えていないのか……」

ローディー「機関という連中は……」

隆文「鼠風情かと思っていたが……どぶねずみにすら劣るな……」

ギリツ!

「だとしたらナチスかそれ以上の愚か者だ!コジマが優先事項だとしても、私も一人の人間だ。奴等の愚行は看過できぬよ……」

ヴァルター「……下衆共が!」

「自らの愚かな行動を恥だと思わないか……!いや人間を部品程度にしか考えていない奴等には恥という概念が判らぬか……」

ローディー「各企業にも伝えねばな……」

隆文「ローディーよ、私がGA傘下の最高責任者を召集する。」

ローディー「ああ、済まんな隆文よ。」

隆文「構わんよ。どのみち、我々が動かかねばならんからな。」

リリウム「では私は王大人にお伝えします。」

東「あくその必要ないよ〜」

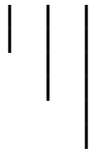
隆文「なに？」

ローディー「どう言う事かね？」

東「さつき全グループの最高評議会に召集かけたんだよ〜」

ほう・・・仕事が早いな。

ヴァルターsideend



リリウム《学園が機関と呼ばれる敵性組織に襲われました。幸い死傷者は出ませんでしたが、学園アリーナの防護シールドがやぶられました。》

王《セシリアと鈴に怪我は？》

リリウム《ありません。》

王《ならばよし。だがお前達にもしもの事があれば奴等を総出で撃滅せねばなるまい。》

ネオニダス《落ち着きたまえ、王小龍。気持ちはわからなくてもないが、確たる証拠があるまい。》

隆文《その機関の正体が判らぬ以上、我々は迂闊に手出しは出来ぬ。》

王《・・・少し頭に血が上りすぎたようだ、すまん。》

ローディー《だがどちらにしても動かねばならん》

アレクサンドル《デユノア社も出来る限りの協力をしよう。》

束《サンキューだよ。アレク叔父さん。》

イルビス《奴等を追い詰めて、肥溜めにぶちこんでやらねばなるまい・・・例え便所にいってもな・・・》

ウイン・D《奴等が何者か知らんが・・・人間を部品としか見ていない以上、看過できぬ問題だな。》

オツツダルヴァ《我々企業連を敵に回したんだ。規模はどうであろうとも、奴等は愚かな真似をしたんだ。》

ヴァルター《その通りだ：：奴等が人間としてやってはいけない愚行をしたんだ：：》



## フランス製大とつき、短編仕立て

コジマパイルバンカーの巻

やあ、僕シャルルだよ（・▽・）ノ

今日はね、いいニュースと悪いニュースがあるんだよ！

いいニュースはね、僕の妹シャルロットが転入して来るんだ！

悪いニュース？それはね

デュノア社製の新型パイルバンカーが

アルゼブラのあれよりデカいんだよ！ちくせう！

しかもよりによってトーラスの合作だよ！弾頭にコジマ内蔵とかイミワカンナイ！



※説明しよう！デユノア、トーラス合作パイルバンカー

”アルゲントウム”とは弾頭にコジマ粒子を凝縮内蔵した

大型のパイルで、直撃すれば大規模コジマ爆発を引き起こすのだ！（但し当たればの話だが。）

シャルロット「シャルル兄さん？」

シャルル「シャシャシャ、シャルロット！何かな？Σ（。D。）」

シャルロット「えつとね、ある人から兄さんと恭一君がお付き合いしてるって聞いたけどホント？」

シャルル「誰から聞いた？」

シャルロット「大帝から（・▽・）」

シャルル「大帝かよおおおおおおお！」

”どうせカミングアウトするんだろ？”

シャルル「ちよ！大帝！」

シャルロット「兄さん・・・ちよつと黙ろうか？」

シャルル「いやちよつと待とうよ！シャルロット！お願いだから止め・・・」

シャルロット「止めない」

ブスリ♂

ズドオオオオオン！

シャルル「尻からコジマが……ギャアアアアアアアアアアアオヴ☒」

”やはりコジマはふつくしい……”

コジマはふつくしい……

大アルゼブラ、新型パイルバンカーを造るの巻

「大変だ！デユノアがトーラスと一緒に新型パイルを造りやがった！」

「なんだと！」「只のパイルじゃ勝ち目がないぞ！」

イルビス「……有澤と手を組むか……」

「イルビス社長！まさか！」

イルビス「大アルゼブラのパイルバンカーの開発技術と有澤のグレネードを組み合わせれば……勝てる！」

「社長かつけ〜！」「その発想はなかった……」

イルビス「コジマパイルには負けん！やるぞ！」

「「うおおおおおおおおお！」」

こうして試行錯誤を繰り返した後

アルゼブラと有澤の共同開発したグレネードパイル、”M<sup>魔</sup>A<sup>王</sup>O<sup>王</sup>H”が完成した。  
有澤「グレネードを組み合わせるとは・・・貴様もよくわかっているな・・・」  
イルビス「パイルの魅力に惹かれたか？」

有澤「無論！」

イルビス「流石日本人、よくわかっている！」

その数年後、アルゼブラと有澤、さらにテクノクラートの3社がロケツト内蔵のグレ  
ネードパイル、”T<sup>天</sup>E<sup>帝</sup>N<sup>帝</sup>T<sup>天</sup>E<sup>帝</sup>I”を造ったのはまた別の話。

夏だ!海だ!コジマだ!

夏!

熱い夏!

夏といったら臨海学校!

おんにゃの子達の輝く水着!

美少女、美女達のキャツキャウフフな美しい光景!

しかし男達は違っていた……

500メートルぐらい離れた場所に

ヴァルター「野郎共!」

シャルル&恭一「はい!」

禪一丁で

ヴァルター「夏だ!」

「夏だ!」

ヴァルター「コジマだ!」



シャルル「うわたけえってあつー!」

ざばああああん!

ヴァルター「では・・・参る!」

ダダダダダ!

ヴァルター「とおおお☒おおおおう☒」

びよ——ん!

ハラリ

恭一「あ!大帝の禪が!」

シャルル「やべえよ、やべえよ!」

ヴァルター「いかん!私の禪g」

ざばああああん!

「大帝ええええええ!」

ざばああああああ!

デンドンデンドンデンドンデンドン

ヴァルター「この程度で私が怯むと思つたかああああああ!」

デーン!デンドン!デンドン!デンドン!

シャルル「大帝!逸物見えます!」

恭一「スツゴく・・・大きいです（照れ）」

※大帝様のアレは巨人サイズ。

その後

ずさあああああああああああああああ！

シャルル「うおらあああああああ！」

マドカ「そのフラッグ・・・ころしてでもうばいとる」

シャルル「げっいつの間に！」

マドカ「喰らえ・・・7年殺し（峰打ち）」

ブスリ♂

シャルル「あ”っ——！」

マドカ「つまらん尻を突いてしまった：バツチい。」

女子達とビーチフラッグ（という名のころしあい）を楽しんだり





ヴァルター「な・・生モノはあかろん・・・」  
旅館で大帝の弱点が刺身だったりと

カオスな1日が過ぎていった。

## 企業連最高評議会” 正体判明”

リリウム《先日襲撃した機関の機体の一部を束様がお調べになられた結果とエージェント”S”と”O”の調査で、彼等……いえ機関の正体が判明致しました。

これが評議会の皆様にご参集頂いた理由です。》

ローディー《ほう……》

ネオニダス《随分早く判明したか……》

ウイン・D《私達を誘っているか……それとも奴等は自身を過大評価しているのか。》  
オツツダルヴァ《前者であれば、こちらに攻勢を仕掛けるだろう。後者であれば……  
フン、情報管理が甘いとみえる》

王《して……その機関の正体とは……》

リリウム《国連秘密研究機関、通称A A A機関……またの名をヴァルキリープロジェクトの亡霊……本拠地は、アラスカにあります。》

ヴァルター《ヴァルキリープロジェクト》

イルビス《それはなヴァルターよ。ISが世に出る前に進めていたという兵士育成計画……だった》

王《だったとはどういう事だ、イルビス？》

東《その辺の説明は東さんがするね。》

アレクサンドル《どうやら前後の事情があつたという訳か……》

隆文《詳細を教えてください。》

東《まあ……何て言えばいいか……優生学的な発想かな？機関のやっていた事はローディー《優生学とはな……》

王《まさかとは思いたくはないが……優秀な子供を選別して、兵士に仕立てていたという訳ではあるまいな。》

東《惜しいね。正確に言えば、優秀な人間の遺伝子を利用して

クローンを造っていたんだよ。》

隆文《なんと・・・》

ウイン・D《奴等はクローンを製造していた訳か・・・》

アレクサンドル《という事は前回の襲撃に使われた機体に組み込まれたあの子ども・・・》

束《そう言う事。まあ産まれた時点で感情も何も無いし、単なる使い捨ての駒だったという訳。》

ヴァルター《なんと愚かな・・・》

王《だが国連もその事態を捨て置く訳なからう。》

束《そこなんだよ王のじーちゃん。普通ならマスコミに取り上げられてもおかしくない大スキャンダルなんだよ。》

オツツダルヴァ《・・・秘密裏に機関を解体したか・・・》

イルビス《その通りだ。国連は余りにもデカイ案件・・・それも自身の首を絞める組

織を解体という形で握り潰した。》

ネオニダス《皮肉なものだな．．．人権保護の為の組織が、人権を否定する真似をやらかしたという訳か．．．》

ローディー《そして連中は解体された後もまだ活動している．．．という事か。》

リリウム《製造工場の所在も確認出来ています。世界各地に12カ所：ドイツ、ロシア、ウクライナ、南スーダン、中国、カナダ、スウェーデン、メキシコ、アルゼンチン、カザフスタン．．．この12ヶ国にクローンの製造工場があります。》

ネオニダス《12カ所とは．．．随分多いな。》

隆文《我々も兵器を造っている罪深い存在だが．．．》

王《奴等はやり過ぎたのだ．．．越えてはならない一線を越えてしまった》

ウイン・D《ここまで来ると、罪深いかそんな話では済まない。》

アレクサンドル《彼等は欲と罪を重ねすぎた．．．愚行の精算をせねばなるまい。》

ヴァルター《して．．．例の計画は．．．》

王《既に実戦配備まで完了してある。後は行動に移るだけだ。》

ローディー《A<sup>アムスフオート</sup>F ランドクラブ、ギガベース、イクリプス、ステイグロ．．．か》

ウイン・D《ISが戦術兵器ならAFは戦略兵器という訳だな。》

オツツダルヴァ 《奴等は武力で企業連に宣戦布告したんだ、己の罪を悔いる時が来た。》

東 《私達を怒らせた・・・地獄を見せてやるよ。》

王 《現時点を以てA Fプロジェクト最終段階を発動する。作戦開始は奴等が第二次攻勢を仕掛けた時点で太平洋方面からステイグロー1隻、イクリプス3機のA F部隊を展開。

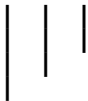
カナダ方面からランドクラブ、ギガベース各6隻の陸上A F部隊を差し向ける。》

ヴァルター 《海上戦力と2方向での挟撃か・・・》

東 《奴等を・・・恐怖と絶望の淵に叩き込んでやる》

ヴァルター 《我々の力と・・・企業連コジ神々が与えたもうた緑の光マの力で

コジマを拒絶した愚か者共  
奴等  
をただ撃滅するのみだ  
《》



## 海上作戦—開戦—

旅館 臨時作戦司令部

事の起こりは午前10時頃。アメリカ太平洋軍司令部からIS委員会経由で企業連に向けて連絡があった。

アメリカ・イスラエル両国で共同開発した新型無人IS”シルパリオ・ゴスベル銀の福音”が何者かによるハッキング攻勢で暴走したというのだ。

まあアメリカとイスラエルの共同開発だからな・・・おそらくパレスチナ侵攻かパレスチナゲリラ殲滅に使われるだろう・・・

既に専用機持ちが全員集合している。

現時点の状況を説明すると・・・

①太平洋空軍アンダーセン基地で試験運用中にシステムエラーが発生し、暴走。司令部の制御下から離れ、基地施設から脱走した。

②運用中にシステムの異常がなかったことから、何者かのハッキング攻勢による暴走だと判明した。

③制御下から離れ暴走した福音を破壊せよという企業連から通達があった。



最高評議会も学園側の戦力では不利だという判断もあつてGAからメイ・グリーン  
フィールドとメノ・ルーの2名。

ローゼンタールからゲルトロード・ディッターズドルフ以下3名の計5名が戦力とし  
て派遣、合流し迎撃及び破壊作戦に加わることになった。

また企業連から”国家機密の為外部に口外しない”条件付きで銀の福音の詳細が送  
られた。

海上封鎖も教師部隊が封鎖してある。韓国籍の密漁者がいたが、奴等は既に海上保安  
庁に引き渡された。ふん、愚か者共め・・・  
ハッキング攻勢もどうせ奴等がやったんだろう。

奴等の動機なんぞ最早知ったことではない。奴等が我々に戦争を仕掛けたんだ。こ  
の礼は高くつくと思ひ知らせてくれるわ。

千冬「以上で作戦概要の説明を終了する。これより部隊の編成を行う。各部隊員は部  
隊長の指揮に従うように。」

さて、ブリュンヒルデの采配・・・見せてもらおう。

千冬「第1部隊は一夏、デユノア妹、オルコット、鳳、貴志川の5名とローゼンター  
ル日本支社の3名の計7名。」

第一部隊は左翼から展開。会敵と同時に中央と右翼の部隊にいる地点に誘引。離脱  
後反転、中央の部隊の戦闘支援を行え。」

なるほど、第一部隊は前・中衛で固めたか。誘引した後に反転し中央の部隊の戦闘支  
援か・・・

千冬「第2部隊はマドカ、更識妹の2名とGAの2名を合わせて計4名。ミサイルで  
福音の進行妨害と弾幕の形成。お前達は右翼の担当だ。」

ほう・・・右翼部隊はミサイルで福音の弾幕形成か・・・面白い、火力の滝を以て奴  
の動きを止めるか。という事は・・・

千冬「そして中央は・・・クリューガー、デユノア兄の二名。福音の止めを頼みたい。  
これは企業連最高評議会の通達である。」

やはりな・・・私が止めを刺すことで、我がコジマの力をこの世界に示す。

ふふふふ、奴等はどんな顔しているだろうな。コジマの力を拒絶した者をコジマ色に  
染める・・・

愉悦！至高にして究極の愉悦である！

千冬「時間が少ない、直ちに行動に移る！各部隊、出撃！作戦開始！」

「さあ」銀シルバリオ・ゴスベルの福音”よ、お前を”真緑コジマリオ・ゴスベルの福音に染め上げる時間が来たぞ……ふははははは！楽しみにしているがよいよ！

海上

一夏《こちら第1部隊、福音を確認。これより作戦地点に誘引します！》

《こちら作戦司令部、地点に誘引後直ちに離脱。反転して戦闘支援を開始されたし。》

始まったな……

エンペラー『主よ、もうそろそろ動く時ぞ。』

ヴァルター「シャルルよ、出撃準備……」

シャルル「いつでも動けます、大帝。」

エリタージュ『僕も準備万端。いつでも。』

メノ《こちら第2部隊、福音を確認。》

《こちら作戦司令部。第1部隊の離脱後、総攻撃開始されたし。》

メノ《了解》

ふははははは！戦闘だ！我等のコジマを世にしらしめる闘いが始まった！  
ヴァルター「さあ、我等の時間だ・・・」

同時刻 カナダ

彼らが海上で福音の破壊作戦を実行している頃、企業連は既に動いていた。

「全艦！目標、アラスカ敵本拠地に向け発進！」

A F ランドクラブ、ギガベースで構成された大規模な陸上A F 部隊がアラスカの機関本拠地に向けて進発したのだ。

地上部隊の戦力はランドクラブ6隻、ギガベース6隻の規模だけでも師団相当と思われる。

また太平洋方面から対地上爆撃A F イクリプス、対艦隊掃討作戦用A F ステイグロが

敵本拠地攻撃に参加した。

企業連に対して事実上の宣戦布告をした機関、  
侵攻作戦を実行段階に移した企業  
連・・・

2つの勢力の戦争の火蓋は切って落とされた。

## 戦線—企業連vs機関—

カナダ

機関本拠地

機関長執務室

百華（ふふふ．．．あのコジマ男はどんな顔しているかしらねえ）

私はAAA機関の機関長、相良百華。今回の福音のハッキング攻勢を仕掛けたのは私よ．．．あははは！アメリカ軍の新型も大したことないわね！私がハッキングしたら勝手に暴走したもの！

私の最高のプラン．．．クローン兵士計画“ヴァルキリープロジェクト”のプロジェクトリーダーよ。あの忌々しいISさえなければ．．．私のプロジェクトは．．．ズウウウウウン！

百華「な、何！今の振動は！」

『機関長！大変です！敵が．．．敵の部隊が接近しています！』

百華「落ち着きなさい、大した戦力じゃないでしょう！」

『そ、それが．．．巨大な兵器と航空機が多数接近中です！』

百華「な……！」

まさか……あいつらが……

機関本拠地から距離2000m

ランドクラブ1号艦艦橋

「艦長、衛星からのデータリンク完了。」

「ギガベース隊のレールガン発射準備完了」

ランドクラブ、ギガベースの混成艦隊が機関に攻撃する準備が完了していた。

艦長「レールガン発射と同時にランドクラブ隊は本拠地付近800m迄前進！主砲と

航空機部隊で攻撃開始。敵本拠地の滑走路と地上部隊を叩き潰せ！」

ギガベース部隊によるレールガンの一斉射、ランドクラブ隊は前進。

そして、ISの登場と同時に無用の長物と云われた航空機による支援攻撃が開始されようとしていた。

「ギガベース隊、レールガン第1射スタンバイ！」

艦長「一斉射！」

ドオオオオオオオオオオン!

ギガベース中央のレールガンが全て発射された。その咆哮はまさに開戦の合図にふさわしいものであった。

艦長 「ランドクラブ隊前進!」

「海上味方艦隊より航空機部隊の発艦確認。」

「レールガン第1射、弾着確認。」

「ステイグロが敵艦隊に攻撃開始。」

「イクリプス部隊前進確認。随伴機部隊、発艦しました。」

艦長 「各艦、主砲射程内に入り次第一斉射!地上部隊を焼き払え!」

「艦長、別働の航空機部隊から通信です。」

その時、通信が入った。それは製造施設を搜索していた別働の航空機部隊からの通信である。

艦長 「何か発見したな、通信繋げ。」

「了解。」

ザザー……

『ラーズグリーズ隊リーダーブレイズより司令部へ、応答願います。』

艦長 「こちら司令部、何か?」



『敵兵器の製造施設と基地施設を確認。施設への攻撃許可を。』

艦長「司令部よりラースグリーズ隊へ、交戦及び破壊作戦の実行を許可する。付近の編隊・・・ガルダー隊と共に全て破壊せよ。」

『ラースグリーズリーダー了解。ガルダー隊と協同で破壊作戦を開始します。』

艦長「成功を祈る。」

—

—

—

### 製造施設

製造施設の状況は既に混乱の極みであった。IS部隊ではなく、たった7機の戦闘機部隊に襲撃を受けていたのだから。

ヴー！ヴー！ヴー！

基地司令「防衛部隊の展開急げ！何をしている！相手は高々F—14AとF—15Eの7機編成だ！小規模の戦闘機部隊だぞ！」

7機の航空機編隊に基地司令部はあわただしく動く。リーダー施設の破壊によって、航空機編隊の侵入を許してしまったからだ。

「絶対防空圏突破されました！本施設に近づきつつあります！」



百華「くそ……くそくそくそおとおおお！ふざけんじゃねえぞ！くそがあああああ！」

既に為す術がなく、機関の戦力も壊滅状態である。

愚かな事に彼女はただ怒りに任せ怒鳴り散らすだけで自身で事態の解決を見出ださうとしなかった。

「機関長！」

百華「何よ！」

「何者かからの通信が……映像が勝手に出ます！」

施設の見取り図を映す巨大スクリーンに無理矢理映像が出された。その映像とは

東《やあやあ馬鹿な機関の諸君！アクアビットの束さんだよ！》

企業連最高評議会の最高幹部の1人でアクアビットの社長、篠ノ之東本人であった。

百華「篠ノ之……東……」

東《誰がやったのかと思つたらあーた様だったのねー相良百華》

表情こそ笑っているが、その口調は侮蔑を含んでいた。

百華「お前か……お前がやったのかよ！」

東《黙れよ……クソビッチ豚。お前はちよつとばかりやり過ぎたんだよ。》

百華「な……！」

東《お前の動機なんて興味ないし、機関のプロジェクトなんて知ったことじゃないし。》

百華「ふぎけんな・・・ふぎけんなよ篠ノ之束！お前達企業連がいなかったら私のプロジェクトは・・・」

東《お前のプロジェクトは戦争の火種しかないんだよ間抜け。

私達企業連のコジマエネルギーとISはやり方次第で可能性は沢山あるんだ。お前と一緒にすんなよ阿呆。》

ヴァルキリープロジェクトを戦争の火種と一蹴する束の一言。

独善的な言い方ではあるが、篠ノ之束は戦争をする為ではなく、フロンティアを目指す為にISを作った。

しかし相良百華のプロジェクトは非人道的で、戦争しか産み出さない。

企業連は自らの罪を背負っている。しかし機関は背負うどころか、罪を作り続けている。

咎を背負った者達と作り続けている者達——企業連と機関の違いは咎を背負う覚悟の有無。それだけだ。しかしその一つの違いが

勝者と敗者を決めたのだ。

東《自分の業を背負わない愚か者共よ・・・つまらん茶番劇は終わりだ

死ぬがいい。》

ブツン！

「通信……切れました。」

百華「……………が……………」

「機関長？」

百華「くそがふざけんなあああああ！何が自分の業よ！そんなもん知るか！ボケがああああああ！」



て・・・

道化にもなれぬまま、愚か者にふさわしい最期を辿っていく羽目になった。

## 戦線―凶鳥達は解き放たれた―

機関が壊滅する少し前。

ブレイズ「ラーズグリーズリーダー了解。ガルード隊と協同で破壊作戦を実行します。」

《成功を祈る。》

ラーズグリーズ隊は敵の施設を発見。司令部に破壊作戦の実行の許可を求め、司令部が作戦実行を承諾・・・ガルード隊と共に作戦を実行する事になった。

ブレイズ「ラーズグリーズ隊各機、ガルード隊との協同で作戦を開始する。」

白騎士事件の際、戦闘機は無用の長物扱いされ、パイロット達は死活問題に立たされた。しかし彼らは翼を奪われなかった。

彼らに手を差しのべたのは何を隠そう企業連だったからだ。企業連のトップの一人、篠ノ之束が責任を感じ戦闘機とそのパイロット達をこちらの戦力に加えたいと言ってきたからである。

彼らを戦力に加えたかったのには理由がある。

企業連最高評議会の全員がISが万能ではないと知っていた事、この一点のみであ



る。

ラーズグリーズ隊は元々アメリカ空軍のエースパイロット部隊だったが、ISの登場で一度は解散の憂き目に遭った。しかし彼らを拾ったのは企業連の一角、GAだ。GAを始めとした企業連が航空戦力の必要性を見出だしていた。

そして空にはエースパイロット達が

空の戦士達が舞い戻ってきた。

エツジ《エツジ了解。》

チョッパー《こちらチョッパー、了解したぜブービ。》

アーチャー《アーチャー了解。》

ソーズマン《ソーズマン了解。》

ブレイズの指示に従いラーズグリーズ隊は動き出す。と、そこへ

タリズマン《こちらガルーダ隊リーダー、タリズマン。司令部の命を受け、貴官らの部隊と協同任務をする事になった。よろしく頼む。》

シャムロック《ガルーダ2シャムロックだ。ラーズグリーズ隊、よろしく。》

司令部の指示を受けたガルーダ隊がラーズグリーズ隊に合流した。

ブレイズ「こちらブレイズ、ガルーダ隊支援感謝する。間もなく敵リーダー施設圏内に侵入する。リーダー施設破壊後、敵施設の強襲を行う。全機作戦開始！」  
ブレイズの号令の下、ラーズグリーズ、ガルーダの混成部隊が今、大空に解き放たれた！

同時刻

カザフスタン上空

レイレナード所属AF空中艦隊 AFアイガイオン

カザフスタンには既にレイレナード所属AFアイガイオン率いる空中艦隊が作戦空域に到達。空中艦隊及び艦載機部隊の任務はカザフスタンの機関の兵器製造施設の攻撃及び敵部隊の排除である。

「艦長、カザフスタン上空に到達しました。」

艦長「シユトリゴン隊全機発艦！発艦後、ネクストIS隊も後続で出撃！我が艦隊は現空域に待機！総員第一級戦闘配備！」

《ギュゲスー了解。防御圏内に移動する》

《イリヤ・パステルナークだ。シュトリゴン隊全機出撃！行くぞ！》

《ギュゲス2了解。アイガイオン、コットスの防御圏内に移動。》

《コットス1、電子支援開始。》

《こちらコットス2、ECM展開。》

空中艦隊があわただしく動く。アイガイオン艦載機、シュトリゴン隊とネクストIS隊の出撃、防空支援プラットフォーム〈ギュゲス〉がアイガイオンとコットスの防御、〈コットス〉は敵性勢力に対する電子戦攻撃……

大規模な空中艦隊……ギュゲスが2機いるとはいえ油断は許されないのだ。

《こちら紅椿、発艦します。》

《ヴァイス・ローゼ、発艦します。》

レイレナード所属のパイロット、箒・S・ボーデヴィツヒ、クロエ・ボーデヴィツヒの2名の出撃準備が完了した。

彼女達も機関の施設の攻撃作戦に参加していた。

艦隊「了解。直ちに発艦せよ。」

《紅椿、出撃する！》

《ヴァイス・ローゼ、出ます！》

レイレナード最精鋭ネクストIS、紅椿・真改とヴァイス・ローゼがシュトリゴン隊

が発艦後に出撃。

艦長「……幸運を祈る。無事に帰還せよ。」

艦長は出撃した彼らに帰還せよと呟くように言った。

—

—

—

イリヤ《シユトリゴン隊各機、今日についてはぞ！俺達の姫様方が戦場に舞い降りた！》

イリヤ・パステルナーク、レイレナードきつての最精鋭航空機部隊へシユトリゴンのリーダー。

軽口こそ叩くが卓越した戦闘機の操縦技術と味方を守る信念は本物で部下達は勿論、レイレナード社の社員達や他のエース達にも慕われている。

箒「パステルナーク隊長、今回の作戦よろしくお願いします。」

イリヤ《おう、箒嬢ちゃん達もよろしくな。》

クロエ《パステルナーク隊長、間もなく敵勢力の施設の防空圏内に突入します。》

イリヤ《了解した。全機作戦開始！天使とダンスだ！》

《了解！》

数時間後、機関の施設はシュトリゴン隊によつて壊滅。アフガニスタンでの作戦は完了、シュトリゴン隊及びネクストIS隊の損失は無し。アイガイオンに帰還した。

—

—

—

イリヤ《シュトリゴンリーダーよりアイガイオン。作戦終了、着艦の許可を求めろ。》  
《アイガイオンよりシュトリゴン隊、着艦を許可する。》

空域に待機していたアイガイオン率いる空中艦隊も損失はなかった。

敵勢力の戦闘機部隊もいたが、ギユゲスの高い防空性能とコツトスの電子戦支援のおかげで目立った被害は無く、敵部隊の排除に成功していた。

イリヤ《シュトリゴンリーダー了解。誘導を願う。》

《了解。後方の乱流には気を付けろ。》

シュトリゴン隊、ネクストIS隊がアイガイオンに次々と着艦。

アフガニスタンでの作戦は完了した。

そしてシュトリゴン隊の作戦が終了してから二時間後、ラーズグリーンズ隊を始めとし

たエースパイロット部隊とA Fの攻撃でアラスカの機関本拠地が壊滅。

機関との衝突は企業連の圧倒的な物量差と高い質の差で企業連が勝利をおさめた。

## 海上作戦―決戦と終結―

企業連が機関に対して総攻撃を仕掛けていた頃、海上での決戦はすでに終着点を迎えつつあった。

ヴァルター「ふはははは！ 怯えろ！ 竦めえええ！ 機体の性能を生かせぬまま、墜ちて行けえええ！」

コジマ・エンペラーは確実に福音の装甲、武装を左手に携えたレーザーブレードで削ぎ落としていた。

福音が逃げようとしても、もう一機――シャルル・デュノアの駆るエリタージュが捕捉していた。

シャルル「逃がさないぞ！ 喰らえ！」

エリタージュに搭載されたマシンガンとプラズマライフルが直撃、福音のシールドエネルギーが50%迄に減衰していた。

そしてシャルルはオーバーブーストの最大加速で接近・・・そして

シャルル「沈めええええええええ！」

ぎゅおおおおお

ズドオオオオオオオオオオ!

アサルトキャノンの一撃が福音に目掛けて放たれた。

シャルル「ちい!外した!」

しかしアサルトキャノンは外れた。福音が直前に加速し、直撃するのを避けたからだ。だが、シャルルの一撃は無駄ではなかった。

なぜなら、彼が二の太刀を用意していたから。

ヴァルター「沈めえええええい!」

ぎゅおおおおお

ズドオオオオオオオオオオ!

福音《A√▽∩∩Θ!?\$?\*:;!》

直撃。ヴァルターのアサルトキャノンが福音を捕捉、福音に致命的なダメージを与えた。だが……

《∩√▽……損傷甚大。システム、再起動。第二次戦闘態勢ニ移行シマス。》

あの一撃を喰らいながらも福音の撃墜はかなわなかった。

シャルル「まだ生きているのか!」

アメリカ・イスラエル共同開発は伊達ではなかった。アクアビット製のIS、ランス



タンを上回る機動力と火力……銀シルバールンベルの鐘と呼ばれる特殊兵装が福音最大の切り札だ。しかし……

ヴァルター《シャルルよ、例の兵装を使う。お前は後退しろ。》

こちらにはコジマの体現者とも言える男がいる。最強のコジマ使い、ヴァルター・クリューガーという男が。

シャルル「まさか、あれを！」

ヴァルター《早くしろ。巻き込まれたいか？》

シャルル「りよ、了解！」

シャルルは巻き込まれたくない為、直ぐ様戦域を離脱。ヴァルターと福音の一騎討ちが始まろうとしていた。

ヴァルター「ふははは、さて福音よ。貴様との遊びもこれで終わりだ。」

海上での戦いをあくまで遊びと言つてのけるヴァルター。

ヴァルター「出でよ、太陽神の大聖堂。」  
ソルデイオス・カテドラル

そしてヴァルターは最強のコジマ兵装、単一使用能力「太陽神の大聖堂」ソルデイオス・カテドラルを発動した。

またの名を地上最強の変態兵器ソルデイオス・カテドラルはアクアビット、トーラス共同開発の試作型コジマ自律機動兵器、ソルデイオス・オービットを20機同時展開するという恐るべき能力だ。

エンペラー『さあ、我がコジマの力の前に』

ヴァルター「頭を垂れて感謝するが良い。」

太陽の大聖堂のうち5機が移動、福音に向けて一斉攻撃。

《∂√ΘEΔ√!》

暴走した福音が完全に機能停止、コアは破壊しなかったが、機体自体は大破。

海上での戦闘は完全に終結、作戦は完了した。

そして企業連対機関の戦闘は企業連の大規模戦力の投入により機関の主力機動部隊は壊滅、関係施設も企業連の戦闘機部隊とネクストIS部隊の尽力により施設の破壊に成功した。

—

—

—

今回の戦闘においてIS委員会は企業連に対して情報の提供程度の役にしか立っていないかった為、企業の心証は大分下がったという。

その後の話であるが、国連現事務総長（某隣国出身者）が企業連によって更迭に追いやられる事態になった。

現事務総長が機関に贈賄、IS学園の機密情報漏洩等の背信行為が企業連の情報部隊

によつて暴かれたからである。

中立であるべき国際機関の事務総長が重大な背信行為を行つていたというあまりに情けない事実に企業連最高委員会の面々は呆れ果てたという。

更迭された事務総長は自国で謎の変死を遂げていたが、暗殺か自殺かは闇に葬られた。

その後、企業連によつて機関の悪行は世界に知れ渡る事になった。

# ラウラちゃんお誕生日おめでとう！

8月14日

クロエ「行ってくるわね。」

ラウラ「行ってきまーす！」

箒「行ってらっしやい、二人とも。」

ブロロロロロ・・・

箒「さて・・・準備するか。」

箒だ。実は今日、私達の愛娘のラウラの誕生日だ。クロエとラウラが二人でお出かけに行つたから、私は準備に専念できる。ふふふ、ラウラよ・・・6歳の誕生日はすごいことになるかもな。

ピンポーン！

む？ 来客か？

箒「はい、今行きます！」

がちゃ！

イリヤ「よう、箒嬢ちゃん。」

箒「イリヤ兄さん！」

私達の勤務先、レイレナードの航空機部隊”シュトリゴン”隊のリーダー、イリヤ・パステルナーク隊長。

あれ？後ろにシュトリゴン隊の面々が・・・

イリヤ「いやな、アイガイオンの整備で俺ら今日珍しく非番でな・・・大してする事ないから・・・」

トーシャ「遊びに来た！」

イヤイヤ、遊びに来たって・・・

ダリオ「いや手伝いに来ただろ・・・」

箒「ははは・・・」

ダリオさん、ナイスフォロー！

イリヤ「ま、俺らが出来る範囲なら手伝うぜ？」

箒「では・・・お片付けのお手伝いとちよつとした買い出しお願いしても？」

イリヤ「なら俺が買い出しに・・・」

『イヤイヤイヤイヤ！』

トーシャ「隊長はマズイでしょ！買い出しに行ったら周りの女性達が隊長のところを

！」

ダリオ「同感」

アレクセイ「駄目です。」

『激しく同意』

イリヤ「えー」

うん、実際イリヤ兄さんは他の女性にモテる。シュトリゴン隊の面々も男前だけど、イリヤ兄さんは別格。イケメンオーラ全開で街に出たら、独身女性はおろかカップル連れまで目がハートになってしまう。

クロエ達と一緒に買い物行ったら、たまたまそこにイリヤ兄さん達が居て複数の女性達に囲まれていた光景を見てしまったからな・・・兄さんイケメンだもん、仕方ない。

トーシャ「えーじゃないすよ!」

ダリオ「隊長が街歩いたら俺らが動けなくなるんで勘弁してください。」

イリヤ「(・ω・)」

アレクセイ「そんな顔しても駄目です。」

イリヤ「いや本気出したら大モテなのは知っているけどよ・・・」

箒「自覚してんですか・・・」

うむう・・・イリヤ兄さんはこれさえなければいい人なんだけどなあ・・・

┆

ラウラ「クロエママ、今日ラウラの誕生日だよね？」

クロエ「そうだよ。」

ラウラ「ラウラはママ達のが大好きだけど、ママ達はラウラのこと好き？」

クロエ「もちろんよ。」

ラウラ「じゃあラウラが大きくなっても大好き？」

クロエ「箒ママも私も、大きくなってもラウラのこと愛しているわ。」

ラウラ「じゃあラウラは大きくなったらママ達のこともと好きになれるね！」

クロエ「嬉しいわ。」

その日の夜

ラウラ「ただいま〜！」

パンパン！

ラウラ「わ!」

『お誕生日おめでとう!』

箒「お誕生日おめでとう、ラウラ。」

ラウラ「わあく・・・すごい」

箒「今日はね、ママ達のお友達のお兄さん達がラウラの誕生日に来てくれたんだよ。」

イリヤ「誕生日おめでとう、ラウラ嬢ちゃん。」

ラウラ「くまさんのぬいぐるみ!イリヤお兄さんありがとう!」

イリヤ「俺はおじさんじゃなくて、お兄さんだけだな・・・」

ラウラ「う?」

箒「イリヤ兄さん・・・」

クロエ「イリヤ兄さん、もうお兄さんって歳じゃないでしょう。」

イリヤ「お前らヒドイ(泣)」

箒「・・・では改めて・・・」

『お誕生日おめでとう!』

ラウラ「ありがとう!みんな!」

┆



ラウラ「んむう・・・スピー」  
ふふふ・・・かわいい寝顔だ。

クロエ「よく寝てるわ。」

箒「ああ。」

ラウラ、産まれてきてくれてありがとう。

クロエ、私の家族になってくれてありがとう。

大好きだよ。

## オペレーション・ラズグリーズ

10月初め頃

ある衛星が軌道を変え、地球に目掛けて落とされようとしていた。

《降下プログラム受諾。降下シーケンス開始。》

その軍事衛星の名はエクスキャリバー。

全長500mに及ぶ巨大な剣の形をした代物であり、対IS用戦略レーザー兵装をはじめ、本体にもデブリ破壊及び隕石破壊用の小型レーザーユニットが多数配備されている最強の衛星兵器である。

《ブースター点火5秒前。4, 3, 2, 1・・・点火。》

その聖剣の名を持つ衛星が

《メインブースター点火。目標ワシントンD.C.。コレヨリ降下開始。》

悪魔となって、地上に死を与えようとしていた。



ローディー《アメリカ軍の軍事衛星が軌道を変えた？》

リリウム《間違いいりません、ローディー様。企業連の情報部隊がつい先程、その情報を入力しました。》

王《誰の仕業だ。》

リリウム《機関の残党が宇宙局のメインサーバーにハッキングを行い、エクスキャリバーのコントロールを奪ったようです。》

束《機関ねえ．．．またあいつらか。》

アレクサンドル《奴等め．．．》

リリウム《ですがご安心ください。すでに最強と名高い方々がエクスキャリバー破壊の為に攻撃しております。》

オツツダルヴァ《．．．かつての空の英雄達か．．．》

隆文《あの戦いで参加した戦闘機乗り達か。彼等が今回の要という訳か．．．》

束《あの人達なら必ずやれる。空を駆け抜け続けた彼等なら．．．》

ウィン・D《計画を壊す者達．．．か。》

王《我々に来れることは．．．成功を祈るだけか。悔しいな．．．》

ネオニダス《世の中ままならんものだな・・・だが、彼等に託そう。》

—  
—  
—

エクスキャリバーは徐々に高度を下げていた。ゆつくりと、地上の目標・・・ワシントンD.Cへ・・・

だが、機関の残党達をつまらない妄執を打ち砕くため、かつての空の英雄達がエクスキャリバーに向かっていた。

高度18500mにいる、巨大な剣をへし折る為に・・・

ブレイズ《ラズグリーズリーダーより全機へ、これより作戦を開始する。》

アルヴェイン《こちらチョップパー、了解。》

ナガセ《こちらエツジ、了解。》

グリム《こちらアーチャー、了解。》

スノー《こちらソーズマン、了解。》

グリム《隊長、あんな大きなモノを破壊するのですか？》

ブレイズ《やるしかないんだよ、グリム。俺達の空を……あんなモノを落とそうなんて連中の妄執を打ち砕くためにな。》

アルヴィン《リリウムのねーちゃんにお願いされたらな、断れると思うか？グリム。》  
グリム《なんで僕に振るんですか！》

スノー《お喋りは終わりだ、二人とも。あと3分で目標だ。》

ナガセ《後方から複数の反応！これは……》

ブレイズ《……どうやら、来たようだな。》

後方から複数の機体の反応、それは……

パステルナーク《こちらシュトリゴン隊リーダー、ラーズグリーズ。聞こえたら返事してくれ。》

レイレナード所属の16機の戦闘機部隊、シュトリゴン隊である。ラーズグリーズ隊と共にエクスキャリバーを破壊する為に、この作戦に参加したからだ。

ブレイズ《こちらラーズグリーズリーダーブレイズ。シュトリゴン隊、来てくれてありがとう。》

パステルナーク《なーに気にするな。俺達もあんたらと同じ戦闘機乗り、共に一仕事と行こうじゃないか。》

彼等も空を駆け抜けた戦士、共に戦うことに理由なんて必要なかった。

パステルナーク《それに、俺達だけじゃないぜ。》

グリム《後方にさらなる反応！》

彼等と共に戦う者達はほかにもいた。

タリズマン《こちらガルーダリーダー、タリズマン。我々にも手伝わせてくれ。》

サイファー《ラズグリーズリーダー、こちらガラム隊リーダーのサイファーだ。俺

達も参加するぜ。》

ピクシー《俺達も力を貸すぞ。》

アルヴィン《お、ローゼンタールのガルーダ隊じゃないか。》

グリム《前の戦いではお世話になりましたからね。》

スノー《それにオーメルのガラム隊だな、なかなか壮観な眺めだな。》

ナガセ《凄いや。鬼神や片羽の妖精まで。》

グリム《まるでエース部隊のパレードですね。》

ローゼンタールのガルーダ隊、オーメルのガラム隊がエクスキャリバー破壊の為に来

たのだ。

シャムロック《君たちと同じさ。みんな。》

この空にいる彼等は国境を越え、所属を越えた戦士達。

彼等の思いは

今、一つになった。

例え誰が立ち塞がるうが、彼等に敵は無し。立ち塞がることなんて出来る訳がない。

ブレイズ《全機へ、作戦地点に到達だ。》

トーシャ《なんて大きさだ・・・》

タリズマン《あれが・・・エクスキャリバーか・・・》

サイファー《こいつは・・・骨が折れる仕事だな。》

アルヴェイン《だけどな・・・》

グリム《やりましょう、隊長！》

ナガセ《行きましょう！》

スノー《俺達でこの空を！》

パステルナーク《やるぞ！》

ブレイズ《全機へ、作戦開始！オペレーション・ラーズグリース開始！天使とダンス

だ！》

《了解！》

彼等はエクスキャリバーに到達。ついに作戦が始まった！

—

パステルナーク《シユトリゴン隊全機、レーザーに当たるなよ!》

ダリオ《アレクセイ、トーシヤ、チコ、ガルダ隊の援護に行け!》

トーシヤ《シユトリゴン12了解!》

チコ《シユトリゴン14了解!》

アレクセイ《こちらシユトリゴン3了解!続け!》

戦闘機部隊はエクスキヤリバーと会敵。エクスキヤリバーはラズグリーズ達が接近と同時に本体の小型レーザーユニットを照射。

張り巡らされたレーザーが彼等に襲いかかる。しかし・・・

アルヴェイン《当たる訳・・・ないだろ!》

タリズマン《舐めるな!》

彼等の実力はエクスキヤリバーを超えるものである。

ガルム隊の乗機はオーメル製戦闘機X-02<sup>ワイバーン</sup>、ガルダ隊、そしてシユトリゴン隊は全機がレイレナード製領域支配戦闘機、CFA-44<sup>ノスフェラト</sup>に搭乗していた。

サイファー《フォックス2!》

ピクシー《フォックス2!》



タリズマン《ガルーダ1、ドライブ！》

シャムロツク《ガルーダ2、ドライブ！！》

《シュトリゴン、ドライブ！》

ガルム隊はX L A Aを発射。ガルーダ隊、そしてガルーダ隊と合流したシュトリゴンの3機がA D M Mを発射。エクスキャリバーのレーザーユニットを破壊している。  
長距離対空ミサイル  
全方位多目的ミサイル

ラーズグリーズ隊も負けていない。彼等はインテリオル製戦闘機、A D F 0 1ファルケンを乗りこなしていた。彼等のかつての乗機は機体が退役していたこともあって、乗り換えることになった。

スノー《フォックス2！》

グリム《フォックス2！》

アルヴィン《フォックス2！》

ナガセ《フォックス2！フォックス2！》

ブレイズ《フォックス2！》

彼等もレーザーの網をくぐり抜け、エクスキャリバーにミサイルを撃ち込んでいく。

ナガセ《破片が剥がれていく！》

タリズマン《破片なんか当たるなよ！》

エクスキャリバーの装甲が剥がれ、内装が剥き出しになっていく。

トーシャ《レーザーの網が減ってきている……》

ダリオ《チャンスだ！》

サイファア《やるぞ！ブレイズ！》

彼等は飛び続ける。

ナガセ《まだよ！まだ飛べる！》

グリム《僕らの後ろに大勢の心！前には大勢の人達の命！》

ピクシー《人が作ったものは必ず止められる！俺達なら！》

パステルナーク《俺達はこの朝日の先をも飛び続ける！》

ナガセ《もつと先へ！もつと！もつと！もつと！もつと！》

死を与えようとする剣を越え、昇り続ける朝日の向こうの果てまで

シヤムロック《僕らはあの先へ！あの大空の果てまで！》

スノー《奴等是最悪のカードを並べた。だが……》

アルヴェイン《だからこんなところで……墜ちる訳には行かないんだよ！》

戦士達は飛び続ける。

ナガセ《ここが私達の空、ここを超える！》

タリズマン《ブレイズ、止めだ！》

ブレイズはADF-01の最後の切り札、機首部の戦略レーザー兵装がエクスキヤリバーに放たれた。

ブレイズ《墜ちろおおおおお！》

放たれた一撃が、エクスキヤリバーに直撃。そして直撃と同時に崩壊が始まった。

タリズマン《やったな、ブレイズ！》

パステルナーク《ああ、終わったな・・・》

ピクシー《よう相棒、生きてるな？》

サイファー《あたぼうよ、死んでたまるか。》

全機が離れ、高度15000付近で完全に爆散。

ブレイズ《作戦完了。全機へ・・・お疲れ様、みんな帰ろう。》

巨大な剣は砕かれ、機関の妄執は彼等によって終わりを告げた。

悪魔は死に、英雄は大空に舞い戻る。

## 大帝様、アクアビットにご帰還&転生者退治

アクアビット本社

コジマ浴場B7

ヴァルター「ふおおおおおおお・・・」

読者の諸君、久しぶりだな。コジマ大帝のヴァルターだ。

いやなに、出てない間はラーズグリーンズ隊の露払いをさせてもらった。彼等の空は彼等自身で守るといふ話を聞いてな。我々企業連のIS部隊が彼等に立ちはだかる敵を蹴散らしたのだ。

立派な精神だ。私が出る幕もないさ。

あの美しい空は彼等の空だからな。

それはさておき、私はアクアビットに戻ってきた。2週間ほど休暇もらったのだ。といつても非常事態があれば戻らなければならんし、戦闘データの提出もあるからな。とはいえ久しぶりのアクアビットだ。コジマ浴を堪能している。およそ半年ぶりの

コジマ浴だ。もちろん、風呂上がりのコジマビール（200倍濃縮）も携えてな！

ヴァルター「コオオオオオオオオオオジイイイイ・・・ムアアアアアアアアアアア・・・」

やはりコジマ浴は最高だ。

今日は恭一少年も来ているが、彼はまだコジマ浴初心者でな。今B1浴場でコジマ浴を堪能している。

ふふふ、彼はシャルルには劣るが良い素質を持つておる。

エンペラー『我が主よ。』

む、エンペラーか。

ヴァルター「どうしたのだ、エンペラーよ。」

エンペラー『社長が呼んでいる。』

社長が？よもや非常事態ではあるまいな？

エンペラー『非常事態ではないが、シャルル達にも召集をかけた。我輩達も早く向かわねばなるまい。』

ふむ、となると面倒な案件か？なら向かわねばな。

—

ヴァルター「転生者？」

恭一「なんすかそれ？」

シャルル「まあ、あれだよ。よくラノベとかに出る俺TUEEな概念的な何かだよ。」

ヴァルター「よくわからんぞ。」

東「まあ正直どうでもいいけどね。」

恭一「どうでもいいんすか・・・」

ヴァルター「で、その転生者というのが何かこの案件に関わる訳か・・・」

私が目を通した資料・・・特殊作戦案件A―5、別名「転生者退治」・・・ふむ、正

直転生者という話事態眉唾物だが、実際あるというのか・・・

シャルル「で、この男・・・織斑秋羅つてのがなんとも・・・」

恭一「織斑の姉さん達と何か関係あるんすか？」

東「いやそれはないよ。ちーちゃん達以外に親戚がいる訳ないじゃん。」

しかし我が社長も冷酷だな。まあ彼女達に親戚がいたとしてもどの面下げて現れた  
としか思えん。

ヴァルター「議論しても始まらない。してその男はいずこに？」

東「ちよつと待つてね」

ガサゴソガサゴソ

ん？社長はなにを？

東「どこにでも行けるドア」テツテテテテーテー

恭一「なんすかその某青ダヌキが使いそうなドア」

確かにな(笑)

シャルル「しかも語呂が悪いwww」

東「んじや行つてみよく私もね」

あ、社長も行くのか。

—

秋羅「なんだここは！おい！誰か居ないのか！」

ヴァルター「そう喚くな、小僧。」

こいつが織斑某か・・・ふん、どんな男かと思つたがなんてことはない、織斑の姓を  
持つ割には凡庸な人間だ。

秋羅「ここは何処だ！お前等は何処の・・・東さん？」

東「五月蠅いよ、ゴミ」

秋羅「ひい！」

社長の軽い殺気程度に気圧されるとは・・・所詮この程度か。

東「汚物を撒き散らす口で私の名前を言うな、この間抜け。」

ヴァルター「ご覧の通り社長もお怒りなのでな・・・貴様には死んで貰う。」

秋羅「いやちよつと待て！」

ヴァルター「問答無用だ！シャルル、恭一！一番槍だ！思う存分やれ！」

「了解！」

恭一「コツジーマウス！」

シャルル「エリタージュ起動！」

さあ、コジマの時間だ・・・私のコジマ浴の邪魔をした罪、その身でとくと贖え！

(※推奨BGM the Unsung war)

—

—

恭一「喰らえ！」

シャルル「そらそらそらそらああああ！」

ダダダダダダダダダダ！

ギユオオオオオオ！

秋羅「ギヤアアアアア！」



織斑某という男はやはり大したことはない。対抗手段があれば使えばいいものを……  
なんとも間拔けな……

東「んじや東さんもいつくよおおおおお！」

おお！あれがコジマ爆撃機4号機、ドレットノート・コジマか……なんと美しい……  
2挺のコジマライフル”Axis”の光が徐々に充填されていく様はまさに神秘的  
な光景だ！

東「喰らえ！ダブルコジマプラスターアアアアアアアアアアアアアアアアア！」

ストオオオオオオオオン！

秋羅「アギヤアアアアアアアアアア！」

あのAxisの光で死ねるかな、あやつは……

秋羅「アガ……ガ……」

まだくたばらんか。ゴキブリ並みにしぶとい

さて……真打ちの私の出番だな……

ヴァルター「さあ、織斑秋羅よ。我らのコジマの光に頭を垂れて感謝しながら

死ぬがよい。」

エンペラー『出でよ！<sup>太陽神の</sup>ソルデイオス・<sup>カテドラー</sup>アアアアアアアアアアル！』

ふはははははは！見るがよい！これが我がコジマの力の化身！アクアビット、トール  
スの力の象徴！太陽神ソル・デイ・オス・カテドラルのゴジマ大聖堂だ！

恭一「美しい……」

恭一少年よ、この太陽神の美しさに感動しておるな……やはり素晴らしい素質を持つ  
ているようだな。

エンペラー『抗うな、己の運命を受け入れろ』

ヴァルター「震えるがいい！怯えるがいい！亡者達がいる暗い闇の中に沈むがいい  
！」

全砲門起動！ソル太陽神デイオスの力に屈するがいい！

ヴァルター「発射アアアアアアアアアア！」

ズドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ！」

秋羅「ア”ツ……」

ドオオオオオオオオオオオオオオオオ！」

ふむ、終わったか……

秋羅「……ア……ア……ア……」

まさかアレを喰らって生きているとは……

恭一「うげ……まだ生きてやがる……」

シャルル「まるでプラナリアみたいだね・・・」

プラナリアか・・・それはプラナリアに失礼であろう。

だがもう終わりだ。

ヴァルター「止めをさしてやろう。諸君、大コジマ爆撃だ。」

シャルル&恭一「了解！」

東「アイアイサー！」

ギユオオオオオ！

アサルトキャノン四連だ！喰らうがいい！

ヒイイイイイイイン！

『沈めええええええええええ！』

ズドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ！

」

ドオオオオオオオオオオオオオオオオ！

ようやく消えたか・・・愚か者には勿体ないが、塵一つ残ってないな。

ヴァルター「では諸君、帰還するでしょう。」

ぬははははは！帰ってコジマ浴の時間だ！ふははははははははは！

こうして織斑の名を持つ転生者君はコジマの光に滅せられたとき  
めでたしめでたし

今さらながら登場人物の設定をばアツ——！

レイレナード

本社はカナダ。支社はドイツ、日本、ウクライナ。

箒・S・ボーデヴィツヒ（25）

クロエの嫁。レイレナード陣営の最強の一角の一人。

乗機はアリーヤベースの機体”紅椿・真改”。彼女の戦闘スタイルはマシンガンとフラッシュロケットで牽制しつつ、ブレードで一撃必殺というシンプルな戦術。

いわゆる原作だったら間違いなく邪道なスタイルではあるが、原作と違い使える物なら目眩ましのフラッシュロケットでも使う、戦争と決闘は違うという区別を知ってる為、この程度は卑怯とは思っていない。

レイレナード陣営の最精鋭航空機部隊”シュトリゴン”の仲はかなり良い。

そしてクロエとラウラを愛している。なおボーデヴィツヒ家の財布は箒が握っている模様。

クロエ・ボーデヴィツヒ（25）

箒の夫ポジ。レイレナード陣営最強の一角。箒と違い、彼女はECMでの攪乱と射撃

をメインにしたスタイル。時々、ローゼンタールのチェーンガン×2アスピナの四連チェインガンで乱射したりする。

乗機は同じくアリーヤベースの”ヴァイス・ローゼ”

原作ではちっさいが、この作品のクロエは身長もおpも大きい。あと瞳は金色ではなく、ルビーのように赤い。

余談ではあるが、箒から告白されてそのままお付き合いから結婚した模様。東は妹の結婚式でもの凄く嬉し泣きしたという。

ラウラ・ボーデヴィツヒ(6)

箒とクロエの娘。純粹無垢、天心爛漫が一番似合う少女。ママ達が大好き。あまりの可愛さにここの読者の某提督が吐血した。

シユトリゴン隊

レイレナード陣営が誇る最精鋭航空機部隊。人数は16人。リーダーのイリヤ・パステルナークが隊長。登乗機はS u r 3 3だったが、新しい乗機として領域支配型戦闘機C F A - 4 4を全員受領。A F アイガイオンの主戦力として配備されている。

以下現時点で判明しているメンバー

シユトリゴン2 (副隊長) ダリオ・コヴァチ

シユトリゴン3 アレクセイ・チェシエンコ

シュトリゴン12 トーシャ・ミジエシク  
シュトリゴン14 チコ

### A F アイガイオン

レイレナード製の大型アームズフォート。全幅1kmにも及ぶ巨大兵器。

艦載機部隊のシュトリゴン隊とレイレナードネクスト2機をメインに、対空火器と拡散弾道ミサイル”ニンバス”を搭載。

それに加え防空火力プラットホーム”ギユゲス”、電子支援プラットホーム”コットス”各2機で編成されるレイレナード空中艦隊という企業の中でも最強の名を欲しいままにしている。

### G A ・ B F F 陣営

G A 本社はアメリカ、B F F 本社はイギリス、有澤重工本社は日本。CEOはビンセント・ハーリング。本社は超高層ビル「ビッグボックス」

### ローデュー

G A の古参幹部の一人。(他にもユナイト・モス、ドン・カーネル、エンリケ・エルカーノがいる) 紳士然としているが、スーツの下はスゴいムキムキ。

## 更識簪

G A 随一のミサイル使い。そしてグレネード好きの最強の一人。ミサイル一斉発射とグレネードこそロマンだと自負するほど。倉持? 知らん。

乗機は N S S ベースの”打鉄・式式”。主な武装は新型ミサイル W H E E L I N G O 1×2 と B F F 分裂連動、そしてガトリング。たまに大火力の社長砲も使う。

メノ・ルー

現時点では名前とセリフのみ。可憐な見た目に反して大火力のお嬢さん。

メイ・グリーンフィールド

G A のミサイル使い。簪の姉弟子。リッチランド襲撃とソルデイオス撃破のセリフには萌えたよな?

マグノリア・カーチス

G A ネクストパイロットの一人。ホワイト・グリント、オーギル、063ANの混成機「ブルー・マグノリア」を駆る。「荒熊」こと真琴・K・カーチスと夫婦で娘二人（一人は元孤児）が居る。

真琴・K・カーチス

マグノリア・カーチスの妻で「荒熊」の異名を持つ。G A の N S S ベースの専用機「打鉄・甲」を駆る。打鉄の名を使っているのは専用機持ちになる前から打鉄を使っていた



からである。なお真琴がキレたらクマー（物理）されるとか。

### 有澤隆文

GA傘下の企業、有澤重工の社長。IS用グレネードの最大手。最近アルゼブラとテクノクラート共同開発（GAの承認済み）した、太くて固くて空飛ぶ爆発するデツカイ杭を打ち出す「パイランカー」天帝をリリースした。

### 王小龍

BF Fの重鎮。原作（AC f A）と違い、リリウム達の事を大事な孫娘として見ている。リリウム達に何かあったら真つ先に相手を殺すスタイル。若い頃に両親が中国公安当局に殺された過去を持っており、中国（主に共産党と公安）を憎んでいる。

### リリウム・ウォルコット

BF Fの女帝にして、ウォルコット家当主。セシリアと鈴ちゃん姉貴分。やはりアンビエントはカッコいい。ウォルコット家の遺産が親族の毒牙にかからなかったのは本家のウォルコット家と王小龍がいたからこそである。

### セシリア・ウォルコット

BF F代表の一人でウォルコット家（ウォルコット家の分家）の若き当主。リリウムの妹分。リリウムの事になるとたまに暴走する。原作と違い、女尊男卑の思想は持っていない。しかし両親はテロに巻き込まれて死亡した悲しい過去を持つ。ウォルコット家が

存続できているのは彼女のたゆまぬ努力とバックボーンにウォルコット家と王小龍がいるから。

乗機はアンビエント（063ANではない）をベースにした機体、ティアードロップ。  
凰鈴音

BFF代表の一人。千冬と恋仲。鈴いわく「一目惚れ」とのこと。しかも両思い。

中国共産党に両親が当局に連れ去られやむなく中国の代表候補生になったが、王小龍と華僑の大物の手引きによりBFFの代表に。両親は健在。

中国共産党のことは「どぶの腐敗したクソみたいな集団」と忌み嫌っている。

いずれは日本に帰化して千冬と結婚したいとのこと。因みに二人の仲は学園公認（鈴×千冬ファンクラブも存在する）である。他の生徒達も暖かい目で見守っている。

余談ではあるが、自分の胸を育てるよりも千冬を全身性感帯にするのが好きだとか。（千冬も開発されるのが好き。）

乗機はオーギルベースに063ANと047ANの混成機体、炎龍。装備はレーザーブレード、BFF分裂（分裂運動含む）とBFF高機動ミサイル、BFFアサルトライフル。

ローゼンタール陣営

本社はドイツ。現時点では日本支社がある。

## 織斑一夏（25）

ローゼンタール陣営の一人にして織斑三姉妹の次女。ラーズグリーズの称号を持つ。ここの一夏ちゃんは巨乳です。巨乳なんです！大事なことなので二回言いました。

ちなみに一夏ちゃんとお付き合いしているドイツ人の女性がいます。金髪巨乳なんです！

三姉妹の乗機は全員オーギルベースの機体。

乗機は白式・春暁。装備はオーメルの新型PMミサイル、ローゼンタールのチェーングン、アサルトライフル、レーザーブレード。

## 織斑千冬（25）

鈴ちゃんの嫁にしてブリュンヒルデ（世界最強）。そしてローゼンタール陣営の最強の一角。織斑三姉妹の長女。

鈴が日本に来日した際に一目惚れした模様。

昔は家事が苦手な女だったが、鈴と一夏達の扱きで今は手料理も難なくこなせるように。

乗機は暮桜・霞。オーギルベースのブレオン機体。背部と肩部ブースターで距離を詰めて、相手に一撃を与える。筈とは違い、フラッシュロケットやマシンガンを使わないが、千冬の戦闘スタイルは一夏とマドカの連携を前提としている為、特に問題にはなら

ない。

織斑マドカ

織斑三姉妹の三女。ランドグリーズの称号を持つ。姉妹の中ではどちらかと言えば常識人枠。千冬、一夏に劣るがマドカも中々の美乳の持ち主。

実は山田真耶とお付き合っている。千冬を家事の出来る女にした張本人。直接千冬に「家事出来なかつたら鈴が苦労するぞ」と言ったという。

乗機は白式・露時雨。一夏の実弾メイン機体に対しマドカの機体は背部にプラズマキャノン2門背負っている。

# ドイツの黒い鷲と黒兎隊

ドイツ連邦共和国某所

黒兎大隊基地

ドイツ連邦にはISの特殊作戦部隊が存在する。ドイツ連邦共和国戦力基盤軍所属、

重機動特殊作戦大隊——通称 シュヴァルトエーハーゼ・パタリオン 黒兎大隊

兵員数およそ700人で、ドイツ連邦共和国軍の陸海空の三軍の内、陸軍と空軍の人員で構成されている。

主な任務は国内に侵入した敵ISへの要撃、国内のISを使用したテロリストならびに関係しているテロ組織の掃討作戦である。

黒兎大隊が設立されたのは8年前、急増する国内のテロに加え安全保障の理由で設立、現在に至る。

この部隊の最大の特徴はネクストIS6機に加え、特殊重装甲型EOS12機を使用する最精鋭部隊だ。

特に重装甲型EOS、アーマード・エクステンデット・オペレーション・シーカー（略

称A—EOS)は従来のEOSと違い稼働時間が従来型の100倍を超えている上に作戦に応じて武装、機体の換装も可能という代物である。

またネクストIS部隊もローゼンタール、アルドラの共同開発機3機、ローゼンタールが開発したランセルベース機3機で編成されている。これにA—EOS12機を加えた計18機の最精鋭戦闘部隊だ。

クラリツサ「大隊気をつけ！」

そしてここに、ドイツ連邦共和国戦力基盤軍の最精鋭部隊を指揮する男が現れた。

クラリツサ「大隊長にかしら<sup>なか</sup>中！」

クラリツサ「敬礼！」

ザツ！

大隊を指揮するのはドイツ連邦共和国空軍中佐、【ドイツの黒い鷲】の異名を持つ男ハインツ・ガーランド32才だ。

彼はEOSドイツチュラント・リーガで24才の若さでチャンピオンになり、EOS運用に関しては恐らく一日の長があると言えよう。

ハインツ「各員休め。」

クラリツサ「整れーっ、休め！」

ザッ！

号令をかけるのは黒兎大隊副司令官、クラリツサ・ハルフォーフ少佐。彼女も若くして大隊副司令官を任されており、織斑三姉妹の次女である織斑一夏と互角にやりあつた戦歴を持つ。

そして恐るべきはこの大隊の士気、練度、統率力が他の追隨を許さぬほど高いのだ。元々対IS戦闘を想定した経緯に加え、8年の間に実績をあげてきた。

ハインツ「諸君、先日のテロ組織掃討作戦の任務ご苦労だった。」

---

---

---

黒兎大隊基地内

ハインツ「ふう・・・」

クラリツサ「中佐、朝からご苦労様です。」

ハインツ「おうよ、一応テロ組織の掃討は済んだがな・・・まだまだゴキブリのよう  
に居るだろうな。」

先日もテロ組織の殲滅に駆り出されていたが、捜査の手が及んでいない下部の組織

や、女性権利団体の過激派が居る上に企業連の攻撃から逃れた機関の残党が、企業連から連邦共和国軍を通じて黒兎大隊にその情報が回ってきていた。

ハインツ「チワワ連中の過激派に落ちぶれた間抜けの残党……こいつあまるで……」  
クラリツサ「落武者——ですね」

ハインツ「日本文化オタクのハルフォーフ少佐に言われたら発狂モンだろうな。」

クラリツサ「大佐殿もなかなか過激な発言ですけど。」

ハインツ「違くないな、ハハハハ。」

と落武者テロリスト達と元国奴議員達共に嘲りを含めた笑いをしつつ、別の話題に切り替わる。

ハインツ「——権利団体の過激派に繋がっているカス共はいずれツケを払う羽目になるが、それは置いてだ……ウルリツヒとお付き合いしてからもうどれくらい経つ？」

クラリツサ「ち、中佐殿！」

ウルリツヒというのはA—E—O—S—3番機「シユヴァルツエア・パンター」のパイロット、ウルリツヒ・ミュラー中尉の事だ。

ハインツより2歳年下の後輩で、必要なこと以外はあまり喋らない寡黙な男である。

クラリツサいわく「不器用な男」だが、クラリツサはその不器用なところに惚れたとか。



ハインツ「ハハハハ——ハルフォーフ少佐、中隊指揮官全員を10時までには召集してくれ。」

クラリツサ「了解しました。では例の……」

ハインツ「ああそうだ……灰色ナチスのヒヒの男達の化学兵器研究施設撃滅作戦の実行命令が下つた。おそらく末端の連中だろうがな……」

灰色の男達、かつて存在したナチス第三帝国の残党で構成されている情報があるが、それ以外の情報は不明という謎に包まれている組織である。

企業連も灰色の男達の存在を知ってはいるが、企業連ですら詳細な事実を掴めていない。別に国家や企業連の諜報部門が無能な訳ではない。むしろ彼らに尻尾を掴ませない彼らが異常なだけである。

そして黒兎大隊の作戦会議から数時間後、研究施設に対する攻撃が開始された。攻撃は苛烈を極め、施設を防衛する敵部隊を完全に無力化するのに多大な時間を要した。

灰色の男達に関する情報自体は得られなかったが、C兵器研究の実験データを始めた情報回収できた。といっても些細な程度ではあるが。

ハインツの予見した通りこの施設自体が灰色の男達にとって尻尾切り程度の存在だったことは言うまでもない。

## 某所

《例の研究所が襲撃されたか：・だがまあ良い、あれは所詮末端組織の施設に過ぎない》

《しかし我々の存在が企業連にも知られつつある。》  
灰色の男達

《いずれにせよ、我々第三帝国の復活を邪魔するのであれば潰すだけだ。》

《IS委員会の方はどうなっているか？》

《上層部の連中は我々の手に落ちました。あの連中に資金の提供をちらつかせたら、いとも簡単に》

《所詮は金の亡者か・・ふん、狗どもが・・》

《しかし我々の後顧の憂いは無くなりましたな・・》

《いよいよ、我々の最終目的の完遂の為に動く時が来たのだ。》

《AAA機関の連中も我々の思惑通り踊ってくれたからな、企業連の戦力もおおよそ把握出来た。》

《諸君、企業連の愚か者共を駆逐する時が来た！我々の崇高なる闘いを邪魔をするものは悉く踏み潰せ！》

《我々第三帝国と総統閣下の為に！》

《ジーク・ハイム勝利万歳！》

世界を脅かす者達が動き出した、果たして世界の命運は如何に・・・

# 大帝様と空中艦隊とGAによる短編仕立て大テクノクラートハラショー

IS 学園職員室

16:15

カタカタカタカタカタ

今日の授業を終え、ヴァルターは今日の実技授業の報告書を終わらせる為に少しばかり残業していた。

ヴァルター（ドイツ軍が灰色の男達の施設を攻撃したようだな・・・然したる収穫もなかったようだ）

学園のPCのキーボードを打ちながらヴァルター自身のノートPCのディスプレイに映るニュース記事に目を通していた。

彼が見ていたのは彼の母国、ドイツで黒兎大隊によるテロリストの化学兵器の研究施設攻撃の記事。記事にはテロリストと出ているが、ヴァルターの考えている通り件の灰色の男達の傘下の施設だった。

最も、施設とその関係者自体が末端だということはヴァルターや黒兎大隊指揮官のハ

インツ・ガーランド中佐は勿論、企業連の最高評議会の予想の範囲内であった……だが……

ヴァルター（だが、奴等の目的はなんだ？ 第三帝国の復興か？ 或いは別の目的でもあるのか？ 資金や人員は何処から？ うむ……パトロンがいるのか？）

灰色の男達の目的、資金、戦力、規模に加え彼らを支援しているであろうスポンサーの存在——企業連最高評議会の頭痛のタネ——もとい、巨大な腫瘍と化していた。

企業連も各地にいるエージエントを使って情報収集にあたっているが、なかなか尻尾を掴めずにいる。

ヴァルター（奴等め……）

エージエント達が悪い訳ではないというのは理解しているが、思わず苦虫を2、3匹まとめて潰したような表情になってしまう。

エンペラー《我が主よ》

ヴァルター「ん？ どうしたエンペラーよ。」

エンペラー《あまり思い詰めるな、そんな顔していると

生徒や教員達が見たら驚くだろう。》

さすがヴァルターの愛機、10年近い付き合いは伊達ではない。

ヴァルター「ああ……すまんエンペラーよ、少々考え過ぎていたようだな。」



いた。

艦長「ハハハハ、それは何よりだよ。」

そしてシュトリゴン、ガルダー両飛行隊は二時間の演習の後、アイガイオンに着艦。燃料、弾薬補給と整備の後にローゼンタール本社専用の基地まで帰還した。

余談ではあるが、補給の間ガルダーとシュトリゴンは「企業連のヒロイン論争」を繰り広げていたとか。シュトリゴンはレイレナードのボーデヴィツヒ一家、ガルダーは織斑三姉妹の名を挙げていた。

何故かシュトリゴン隊副隊長のダリオ・コヴァチはGAのメイ・グリーンフィールドの名を挙げて両飛行隊のメンバー全員から「お前はGAの子飼いか！金髪巨乳好きか！」という総ツツコミされたとか。

18:25

ノルウェー

アクアビット本社

東「コジマのパイルで！」

「「わっしょいわっしょい」

ズドオオオオオオン!

束率いるアクアビットは相変わらずコジマ色だった。

束「アクアビットのコジマとデユノアのパイルは!」

「「世界一イイイイイイ!」」

何処までもロマンを追求する企業、それがアクアビットだ。

20:45

アメリカ合衆国サウスカロライナ州

GA社地下工廠

GA社地下工廠——ここはGA所有の巨大な工廠で、地下200メートルにはAFギガベース、ランドクラブを製造、修理や整備をしている。

そして地下工廠へ向かうエレベーターの中に、ある三人の男達がいた。

モス「しかしまあ、テクノクラートが我々の新型AFの建造に関わるとはな・・・」

カーネル「俺らも驚くしかないだろ、ロケットのテクノクラートとGAが共同で開発するなんて誰も思わんさ。」

一人はユナイト・モス。GAの四人の古参幹部の一人で、ローディーとは旧知の間柄。粗野という字を擬人化したような男で、紳士然としたローディーとは正反対にも関わら



ず相性が良い。

もう一人はドン・カーネル。元アメリカ陸軍出身で古参幹部の中では後から加わったが、それでも古参幹部であることには変わりない。

そして最後の一人はテクノクライト代表、イワン・ボリスビッチ。斜陽企業と呼ばれていたテクノクライトを火薬増量ロケットを開発したことで一躍有名にした立役者。

日本でもテクノクライトの名は知られており、ネットユーザーから「変態おそロシア企業」「大おそロシアロケットマン」の異名を賜っているとか。

そしてエレベーターが地下に到着する。この巨大な地下工廠で、ある新型AFが建造されていた。

モス「こいつは・・・ギガベースの改良型か・・・？」

カーネル「只の改良型じゃないな——こいつの主砲、テクノクライトのロケットか！」  
ボリスビッチ「そうだ——テクノクライトのネクスト向け大型ロケットB<sub>v</sub>S<sub>1</sub>S<sub>5</sub>0をスケールアップしGAのギガベースに取り付けた強化型AF、タイタンだ。」

ギガベースの主砲部分をスケールアップしたロケットを取り付けた強化型AFタイタン。見た目こそギガベースではあるが、装甲、火力も改良前のギガベースを上回って

いた。

そしてその2週間後、タイタンの洋上試験が行われた。

海上で大 ボリスビツチのハラショーなロケット砲 ロケ 砲の発射試験をした際にボリスビツチは「ハアアアアア

シヨオオオオオオオ！」という歓喜の雄叫びをあげたそう。

## 第三帝国の復活と襲撃

11月24日

南米某所

灰色の男達、それはかつて栄華と殺戮を極めたドイツ第三帝国の残党達の子孫によって構成されている、テロリスト集団である。

その灰色の男達は今、南米の地下基地に潜伏している。

「諸君、我ら第三帝国の復活を待ち望む偉大な戦友諸君！我々の戦争はまだ終わってはいない！かつての戦争で失った物は大きく、今の我々の領地はこの地下基地にしか存在しない！」

壇上で演説している親衛隊の制服を着ている壮年の男、この男の名はワルター・G・F・マイントイフェル。第三帝国残党の子孫であり、灰色の男達のナンバー2である。

そしてマイントイフェルの後ろに居る者達全員も灰色の男達の主要メンバーである。マイントイフェル「我々はこの腐敗した世界を正さねばならない！」

ISという欠陥兵器を世に産み出した篠ノ之束とそれに追従する企業連の犬、生産性のない同性結婚を持って囃す愚かな女達・・・

そしてゲルマン民族の血を持ちながらも企業連の犬に成り下がったヴァルター・クリューガーという存在！我々はこの男を決して認めない！」

ワアアアアアア！

マイントイフェルの演説で沸き上がる大歓声、ここに居る者達は残党の子孫、灰色の男達に志願したスラブ系、やアメリカ人、果てはAAA機関の残党や元軍人、戦災孤児達を拉致し、洗脳後教育した多数の少年兵達で構成されている。その数4〜5000人といったところか。

マイントイフェル「我々第三帝国が、この旧世界を

破壊し、新たな秩序によって統治する、我々こそが新世界の支配者にふさわしいのだ

！

ワアアアアアア！

ジーク・ハイル 勝利万歳！ジーク・ハイル 勝利万歳！ジーク・ハイル 勝利万歳！

その光景はまさに狂気の一言。1943年2月18日に行われたドイツ第三帝国宣伝相ヨーゼフ・ゲッベルスによる総力戦演説の観衆達を彷彿させる。

彼らは狂っている。洗脳された者達もいるとはいえ、その光景は異常としか言い様がない、まさに熱狂的なカルト教団の信者と言うべきか・・・

マイントイフェル「全軍、行動開始せよ！」

そして彼らの悪意が動き出そうとしていた。

—

—

|

11月24日

23:22

カナダ

レイレナード社管轄空中艦隊整備基地

ここはカナダにあるレイレナード空中艦隊専用の整備基地である。この基地はアイガイオン・ギユゲス・コットスの5機の修理・点検を行う巨大整備基地である。その基地で・・・

ドカアアアアアーン!

爆発、それもかなり大きな爆発が起きた。

ジリリリリリ!

「何事だ!」

「工廠で爆発です！第2工廠が爆発しました！」

「警報発令！警備部隊は第1種戦闘配備！消防隊も直ぐに向かわせる！」

「はっ！」

基地内の消防隊が出動、警備部隊にも出動と戦闘配備の命令が下された。しかし：

ドカアアアアン！

「今度はアイガイオンの整備工廠で爆発です！」

「クソっ！一体何が・・・！」

爆発による火災は甚大、アイガイオンとギュゲス1の整備工廠は6時間かけて消防隊による消火活動が行われたが、最終的に2つの工廠が全焼した。しかし幸いな事に死者が出なかったのが唯一の救いだっただけだ。

しかし整備工廠の全焼により再建までに丸一年は掛かる見通しとなり、アイガイオン、ギュゲス1の整備もインテリオルが管轄するフランスのステイグロ駐留拠点で修理・点検を行う羽目になった。

この事態は企業連内に大きな衝撃が走った。特に当事者のレイレナード社、空中艦隊、そしてネクスト搭乗者のボーデヴィツヒ夫妻にだ。

ドイツ シュトウツトガルト

箒「空中艦隊の整備基地が！」

深夜、ボーデヴィツヒ夫妻宅にレイレナード空中艦隊所属航空部隊「シュトリゴン隊」隊長イリヤ・パステルナークからのテレビ電話で連絡が入ってきた。

パステルナーク《ああ、アイガイオンの整備工廠とギュゲスーの整備工廠が全焼、再建まで丸一年掛かる上に犯人も捕まっていなかったよ。》

クロエ「犯人？事故ではなく、誰かのテロ攻撃だど？」

パステルナーク《テロだよ、どこのバカなヤツが仕掛けたのか知らんがな。爆発が起きた場所に不自然な痕跡が見つかったようだ。》

箒「一体誰が。それよりイリヤ兄さん、空中艦隊の皆さんはご無事で？」

パステルナーク《心配するな、空中艦隊は太平洋上のガルーダ隊と一緒に演習していたんだ。おかげでこっちの損害は無し。》

箒「良かった。。」

パステルナーク《だが死人が出なかったとはいえ、空中艦隊の修理の為にフランスまで行かないとはな。》

空中艦隊に損害が無かったとはいえ、整備工廠のあるカナダからインテリオル・ユニオンのフランス駐留拠点までかなりの距離がある。移動時間だけではなく空中給油機による給油も必要になってくるのだ。

一方その頃、企業連最高評議会もいつも参加しているメンバーに加え、企業連に加盟している企業全ての代表に評議会召集の辞令が下った。

王《今回のレイレナードの整備基地が爆破された件についての話だが・・・》

ベルリオーズ《我が社の整備基地内の工廠2つが全焼した。全て爆破されていないとはいえ、アイガイオンの整備工廠がやられたのはかなりの痛手だ・・・》

彼の名はトリスタン・ベルリオーズ、レイレナード社のフランス人CEOである。アクアビットと業務提携の話を持ちかけてレイレナード社を大きくしたのは彼の業績と云える。

ハーリング《整備工廠のこともそうだが、レイレナードの工廠にテロ攻撃を仕掛けた犯人だ。彼ら是我々企業連に対して攻撃してきた。》

ビンセント・ハーリング——彼はG<sup>グローバル・アーメンツ</sup>AのCEOで、ローディーらを始めた古参幹部らと共に中堅企業の一角に過ぎなかったGAをアメリカ国内のIS産業のシエアナバー企業までのし上げてきた。

レオハルト《犯人はまだ捕まってないが、既にICPOとサイモン・ヴィーゼンター



ル・センターにも捜査依頼を出した。何もしないよりマシとはいえ、実際あてになるかどうか……》

レオハルト・シユミット——34才の若さにしてローゼンタールCEOを勤める。企業連最高評議会のメンバーの中で2番目に若い。父親から受け継いだローゼンタールを彼の代でここまで大きくしたのも彼自身の手腕の高さが窺える。

ロイ《ま、大してあてにもならんだろうな。企業連傘下の関係施設もそうだが、IS学園も狙われる事も想定しておいたほうが良いと思うぜ。》

ロイ・ザーランド——アル<sup>通</sup>ブレヒト<sup>称</sup>・ドライ<sup>アル</sup>スのCEOで一見掴みどころのない男だが、アルドラの職人気質の結晶たるネクストIS、HILBERT-G7とSOLDNER-G8を世に送り出した。またローゼンタールと共同開発した<sup>シユヴァルトエア</sup>Sシリーズ6機の内3機は彼らアルドラの技量とロイ・ザーランドの努力の賜物である。

他にも有澤重工、デユノア、クーガー、MSACインターナショナル、GAヨーロッパ、さらにアクアビット傘下の研究機関のアスピナといった企業連の傘下の代表達が集まった。

東《ん……その辺は想定してあるけどね、もしかしたら犯人達ってさく奴等じゃないかな?》

アレクサンドル《奴等……まさか……!》

隆文《例の——灰色の男達か・・・》

ベルリオーズ《という事は、空中艦隊の整備工廠の爆破テロも!》

オツツダルヴァ《ナチスの亡霊の仕業という訳か・・・なるほど、合点がいくな。》

ウィン・D《奴等め、アイガイオンが余程邪魔だと見えるな。》

東《どのみち奴等との戦いは避けられないね・・・》

会議が煮詰まった頃、翌25日南米では・・・

「全エンジンユニット起動」

「圧力正常、計器類異常無し」

「コースクリア、いつでも行けます」

「マイントイフェル《さあ我々の復讐の時がきた!スピリダス、発進!》

「全ブースター点火、発進」

ゴゴゴゴゴゴ

第三帝国の技術者達の結晶、航空要塞スピリダスが今飛び立とうとしていた。

## V S 航空要塞

南米上空

スピリダス艦橋

艦長 「目標ワシントン、機関最大」

「了解、機関出力最大。目標ワシントンDC」

艦長 「ワシントンの攻撃完了次第、IS学園に向けよ」

南米から飛び立った航空要塞スピリダス——その大きさはレイレナード空中艦隊旗艦アイガイオンとほぼ同じであるが、その戦闘性能は未知数で武装も企業連の情報網を以てしても知ることが出来なかった。

艦長 「ふふふ……さて奴等も来るだろうな、我々の本当の目的も知らずにな……」

スピリダスの艦長の言う本当の目的というのは果たして……

「艦長、レーダーに感あり！1時方向から敵機動部隊接近！」

艦長 「来たな、数は？」

「戦闘機2、ISが6！戦闘機はおそらくガルム隊と思われまます！」

艦長 「戦闘機とISが出てくるのは予想出来たが、よりによってガルム隊とGAとア

メリカ空軍か——対空戦闘用意！ECM出力をレベル3に上げる！」

「了解、ECM出力レベル3に移行！」

「対空戦闘用意！」

航空要塞 v s 企業連部隊の対決が始まろうとしていた

—

—

—

一方のガルム隊はアメリカ空軍IS部隊2機とGA所属IS部隊4機と合流、敵航空要塞に向けて移動していた。

サイファー《ガルムリーダー、サイファーより全機へ。各機状況報告。》

ピクシー《こちらガルム2、スタンバイ》

メノ《サンシャイン1、スタンバイ》

メイ《こちらサンシャイン2、スタンバイ》

マギー《マグノリア1、スタンバイ》

真琴《マグノリア2……スタンバイ……》

ナターシャ《こちらシルバー1、スタンバイ》

イーリス《シルバー2、スタンバイ》

迎撃部隊隊長はガラム隊リーダーサイファーことジャック・ブライト、迎撃部隊メンバーはガラム隊2番機ピクシーことラリー・フォルク。

GAからメノ・ルー、メイ・グリーンフィールド、マグノリア・カーチスとその妻である真琴・K・カーチスの四人、アメリカ空軍からナターシャ・ファイルス中尉とイーリス・コーリング中尉の二人だ。

さて、何故ガラム隊がアメリカに居るかというと、彼らはアメリカ空軍からGA経由でオームルに要請があった。

その要請で二週間前からISとオームル製の戦闘機X-2ワイバーンによる連携訓練が行われていた。

ナターシャ《こちらシルバー1、距離2600に敵機視認・・・これは・・・!》

ガラム隊とIS部隊がスピリダスから2600の距離に到達したとき、巨大な飛行要塞を視認した。その威容はまさにアイガイオンのそれに近いものがあった。

イーリス《ありやレイレナードのアイガイオンか? いや・・・》

だがアイガイオンと違い、その機体は複葉機そのものであった。

マギー《みんな気をつけて! 何が来るか分からないわ!》

真琴 《レーダー……この距離から……ECMの……影響受けて……いる……かな……り……厄介……》

距離2600の地点で既にスピリダスの広範囲のECM圏内に入っている。おそろくスピリダスの何処かにジャマーの発生装置があるのであろう

ピクシー 《こちらガルム2、相棒……かなり面倒な相手だな……》

サイファー 《機体の何処かにジャマーの発生装置があるはずだ！まずはジャマーと対空火器を潰すぞ！》

《《了解》》

ピクシー 《よし、対空火器の弾幕花火の中に突っ込むぞ相棒！》

サイファー 《おうよ……ガルム1から全機へ……エンゲージ会敵！》

南米上空でついに航空要塞vs企業連、合衆国空軍による戦いの幕が切つて落とされた。

ドガガガガガガ！

ピクシー 《対空砲の弾幕来るぞ！全機ブレイク！》

スピリダスの強烈な弾幕がサイファー達に襲いかかる。

サイファー 《マグノリア隊、サンシャイン隊は左翼に行け！シルバー隊、右翼の対空火器を黙らせるぞ！俺に続けえ！》

マギー《マグノリア1了解！真琴、メイ、メノ行くわよ！》

真琴《マグノリア2・・・了解》

メノ《サンシャイン隊了解、行きましようメイ》

メイ《サンシャイン2了解、全兵装オールウェポンズフリー》

ダダダダダ！

サンシャイン隊2番機<sup>機</sup>メリーゲートがまずスピリダスの左翼に着地、続けてプリミティブライト、ブルーマグノリア、打鉄・甲が着地する。対空機関砲がメリーゲートに向けられるが・・・

メイ《甘いわね！》

ダン！ダン！ダン！

向けられた瞬間、メリーゲートの主兵装であるGAN02INSSWRとGAスタンダードバズーカ<sup>B</sup>の餌食になる。さらにプリミティブライト、ブルーマグノリア、打鉄・甲のバズーカ、ライフル、ガトリングガンの餌食となつていった。

続けて右翼に回り込んだガラム隊とシルバー隊も空中から機関砲を潰す為に接近、さらにイリスの専用機である近接戦闘仕様機、フアング・クエイクが背部4基のストラターによる個別連続瞬時加速で回避しつつ・・・

ズウウウウウ！

着地した。

イーリス 《うおらあああああ！》

ガシャアアアアン！

対空機関砲をナツクルで破壊していく。ナターシャの専用機ホワイト・グリントの閃光のライフルによる援護攻撃もあつてイーリスに向けられる砲台はナツクルによって潰されていった。

ナターシャ・ファイリスの専用機、ホワイト・グリントはGA傘下の企業の1つであるラインアークによって開発された最新鋭機で、コアユニット背部の14対28基のオーバードブースターによって超高速戦闘を実現可能にしていた。最大速度こそ無人IS銀シルバリオ・ゴスベルの福音に劣るが、企業連で生産されている機体を遥かに凌ぐ時速1700kmにも及ぶという。

ピクシー 《おいおい、格闘で砲台潰すつてのもすごいな・・・おい相棒！4時方向から接近する熱源感知、敵機だ！》

とそこへ、敵増援部隊が接近しつつあった。

サイファー 《何！数は？》

ピクシー 《専用機が8機だ！機種まではわからんが、IFFに反応は無い！》

サイファー 《ちっ！邪魔な連中が来たか！サイファーからシルバー隊聞こえるか！》

ナターシャ 《こちらシルバー、どうしました？》



サイファー《敵増援が接近しつつある！敵砲台は任せ、増援は俺達が叩く！》  
ナターシャ《シルバー！了解！》

イーリス《おうよ、任せときな！》

サイファー《よし、ピクシー！潰しに行くぞ！》

ピクシー《了解だ相棒！》

スピリダスはIS部隊に任せ、ガルム隊は敵増援8機の撃滅に向かった。

新たな敵に風雲急を告げるスピリダス攻略戦、果たして・・・

## V S 敵戦闘機部隊

ガラム隊が敵増援に向かっている頃

アントン 《ゴルト1より各機、状況を開始する》

ゴルト1と名乗るこの男の名はアントン・カプチエンコ、元ドイツ空軍の戦闘機部隊「ゴルト隊」の隊長で最終階級は中佐。

元々彼が率いるゴルト隊はドイツ空軍のエース部隊だった。しかし彼らに・・・特にアントン・カプチエンコにはある容疑がかけられていた・・・

しかしそれは後々語るとして、ゴルト隊の向かっている先に彼らがいた。そう、ガラム隊である。

アントン 《彼等の好きな殺し合いで、正義を決める》



ピクシー《見えた、敵戦闘機部隊視認。》

サイファー《おそらくの航空要塞あのかうでかいの直掩だろうが……ちよいと遅かったな！行くぞ

！》

ピクシー《了解だ相棒！》

サイファー《ターゲットロック……FOX3！》

ピクシー《FOX3！》

シユバアアアアア！

サイファーとピクシーがミサイルロックと同時にワイバーン専用の特種兵装

XLAAを各4発、計8発発射。しかし……

ピクシー《何！》

サイファー《クソッ！全部避けやがった！》

シユバアアアアア！

ピクシー《ミサイルだ！ブレイク！》

サイファー《クソつたれ！》

なんと長距離空対空ミサイルを回避しきった上にミサイルの一斉発射してきた。

サイファー《おい、マジかよ……》

ピクシー《サイファー、奴等の機体を見たか！》

そしてガルム隊とゴルト隊がすれ違った瞬間、サイファー達は彼らの機体を見た。いや見てしまったというべきか。

サイファー《・・・見たさ、あんな特徴のある機体があるのはおかしいだろ・・・》

ガルム隊が見た機体、それは概念実証機としてわずか1機のみ造られた幻の機体

ベールクト  
Su-47

それが8機もあるというのだ。

サイファー《・・・奴等を潰すぞ！》

ピクシー《了解！》

すれ違った後に急速反転し、ゴルト隊の1機に向けて特殊兵装XLA A2発と機関砲を発射。

ドオオオオオオオ！

サイファー《1機撃墜！》

サイファーが1機撃墜、さらにピクシーもミサイルで追い込んだ後に機関砲で1機撃墜した。

《ゴルト4と7がやられた！》

アントン《落ち着け、訓練通りにやればいい。死にたくなければ私に続け。》

サイファー（ベールクトの存在は知っていたが・・・機体の性能は知らん、奴等の実

力は：：実力に関して他の機のパイロット達は勿論エース級だが、あのリーダー機：：厄介だな、奴が動かししているな。」

ガラム隊に食いつかれて撃墜された2機を含む7機も並のパイロットでは間違いない撃墜されるほどの実力を持っている。リーダーのアントン・カプチェンコはゴルト隊の中ではおそらくかなりの実力者だ。

だが・・・

サイファー（だったら奴等を1機ずつ撃墜すればそれでカタがつく！）

サイファー《あいつら全部墜とす！行くぞ、相棒！》フリイ

ピクシー《了解した相棒！》ジャック

地獄の猟犬達の鋭い牙が金色のイヌワシ達に向けられた。

ピクシー《墜ちろ！》

シユバアアアアア！

ドオオオオオオン！

《ガアアアアア！》

《ゴルト3がやられた！》

《こちらゴルト2、残りは何機だ！》

《こちらゴルト8！ミサイルを振り切れない・・・ギヤアアアア！》

ガラム隊によって1機、また1機墜とされていく。徐々にアントンにも焦りの色が見え始めていた。いや、アントンだけではない。ゴルト隊全員に焦りと怯えの色が見え始めていた。

アントン（どういう事なんだ・・・たかだか2機で我々が押されている！何が・・・何が彼らを動かしているんだ！）

しかし焦りと同時に、ある違和感を感じた。

アントン（いや、それよりも搭載されているミサイルの弾数だ！機体に積まれているミサイルの数がおかしい！最初の会敵とさつき放ったミサイルを全弾撃ち尽くしたはずだ！）

驚くのも無理は無い、企業連が製造した機体・・・X-02、ADF-01、ノスフェラト CFA-44の全ての機体にある機能が備えられていた。

実は機体にISのコア——といっても拡張領域パスロットルの機能のみだけではあるが、疑似ISCOAを搭載しているのだ。拡張領域内にサイドワインダーと専用の特種兵装一種類を各100発、機関砲の弾丸を1000発以上、さらに1機分の予備燃料を積んでいる。これにより長時間の作戦が可能となった。

ただしADF-01は唯一の例外で、戦術レーザー兵装 TLSのエネルギーユニットを50発分とサイドワインダー100発分、予備燃料1機分搭載している。

確かに彼らは<sup>ゴルト隊</sup>エース部隊だ。だが……過去形となりつつある彼らは獵犬達にとつてただの餌程度に過ぎなかった。

サイファー《おら墜ちろ！FOX2！》

シユバアアアアア！

アントン《くっ！全機フォーメーションを……》

サイファーのミサイルをかわしつつ、アントンはゴルト隊の残りにフォーメーションの再編の指示を出そうとしたまさにその時！

ピクシー《喰らいな！》

シユバアアアアア！

アントン《な……！》

ドオオオオオオン！

かわした瞬間のピクシーのミサイルがアントンの機体に直撃した。ただ、当のアントンはバイルアウトしたようだ。

サイファー《命中！》

ピクシー《残りを片付けるぞサイファー！》

サイファー《おうさ！》

それから数分の間にガルムによつてゴルト隊は全滅、増援部隊の殲滅は完了した。

ピクシー《さあ、急ぐぞ相棒！あいつらも首を長くして待っている！》

サイファー《よし行くか！》

ゴルト隊を撃破したガルム隊は直ぐに反転、ガルム達から見たらバカみたいにかい航空要塞スピリダスの下へ急行した。

一方IS部隊はというと・・・

マギー《ミサイル来るわよ！》

真琴《来る・・・》

メノ《散開！》

シユバアアアアア！

メイ《ミサイル飛来！ブレイク！ブレイク！》

ナターシャ《くっ！》

マグノリア隊、サンシャイン隊、シルバー隊はスピリダスのミサイルに少々手をこまねいていた。

ただ一人・・・

イーリス《だったら・・・》

スピリダスに単機で取り付いた

イーリス《力づくで潰すだけだろ・・・》



合衆国空軍1S部隊一の脳筋格闘戦バカ

イーリス・コーリングを除いて……

イーリス《そおおら行くぜえええええ！》

ガシヤアアアアア！

スピリダスのジャミング装置をナツクルで破壊し、直ぐ様イグニッション・ブースト瞬時加速で反対側に移

動、そして

イーリス《うおらあああああ！》

ガアアアアア！

もう一つのジャミング装置を加速による蹴ブーレストチャージりで破壊した。

真琴《ECM……止まっ……た……》

ナターシャ《全く……だけど悪く無いわね、よくやったわイーリイ！》

メイ《ミサイル発射スタンバイ、行くわ！》

イーリスがジャマーを発見と同時に破壊、ECM機能が消失した。

真琴《マギー……ちゃん……行こ……う》

マギー《ええ、行くわ真琴！ターゲットインサイト、行つて！》

ナターシャ《こちらシルバー、ミサイル発射！》

シユバアアアア！

シユバババババ！

打鉄・甲の多連装WHEELINGミサイルと061BFANRM、マギーの専用機のブルー・マグノリアとナターシャの専用機ホワイト・グリントのMSAC新型分装ミサイルのSALELINE05の一斉射撃がスピリダスを襲う。

ドガガガガガガ!

—

—

—

スピリダス艦内

ズウウウウウン!

「ミサイル発射管潰されました!」

「ECM機能消失、右舷及び左舷上翼損傷53%、高度が落ちていきます!!」

「対空機関砲全門喪失、防御システム全て機能停止しました!」

スピリダス艦内に鳴り響くアラーム音、スピリダスの防御の要と云える対空機関砲群は彼女達によって破壊されていた。

艦長「クソッ! ジャマーが破壊されたのか!」

「ミサイル第二波来ます!」

「敵部隊、後方に回り込みました!」

艦長「やむを得ん．．．バラウーダを起動させろ！」

「艦長、今の状態でバラウーダを撃てば機体が持ちません！」

艦長「構わん！発射じゅ．．．」

ズウウウウウン！

「バラウーダ破壊されました！」

「さらに後方に2機接近！先ほどの敵機です！」

艦長「馬鹿な．．．」

—  
—

サイファー《こちらガルム隊、敵増援は撃破した！残りはデカブツだけだ！》

マギー《こちらマグノリア1、シルバー2がジャマーを破壊したわ！》

ピクシー《あいつか、中々面白い戦い方をするじゃないか。》

ナターシャ《こちらシルバー1、敵砲台破壊！》

サイファー《了解したシルバー1。ガルム1から全機へ、これでラストダンスだ！行

くぞ！》

《《《《了解！》》》》

真琴 《了・・・解・・・》

サイファー 《天使とダンスだ！続け！》

航空要塞との戦いも終盤を迎えつつあった。

# 決着！航空要塞！

サイファアー《天使とダンスだ！続け！》

サイファアーの号令と共に、スピリダスに対する最後の攻撃が敢行された。

メイ《行つて！》

真琴《発・・・射・・・》

シユバアアアアア！

メリーゲートと打鉄・甲による新型多連装ミサイルWHELELING01と新型垂直ミサイルWHELELING03、さらに06BFF分裂連動1ANRMとMUSKINGUM02による一斉発射がスピリダスの翼部上面に直撃する。

ドガガガガガガ！

イーリス《ううわ！危ね！》

直撃したミサイルとスピリダスの外装の破片が下側の翼部にいるイーリスに降り注ぐ。

サイファアー《そんなとこに居るからだ！さっさと離れな！》

ナターシャ《イーリイ早く離れなさい！爆撃に巻き込まれるわよ！》

イーリス《わ、わかったよお。》

キイイイイイイン!

イーリス《こちらシルバー2、スピリダス<sup>デ</sup>から離脱した!》

サイフアー《よし全機!ミサイル発射、FOX3!》

ピクシー《喰らえ、FOX3!》

ナターシャ《ミサイル発射!》

真琴《発・・・射・・・》

マギー《行って!》

メノ《ミサイル発射!》

メイ《ミサイル、安全解除。発射!》

シユバアアアア!

イーリスは最大戦速でスピリダスから離脱。直後にガルム隊を始めとした全機のミサイルの一斉発射がスピリダスの装甲を破壊する。

ドガガガガガ!

ガルム達が放ったミサイルの破壊力はかなりの威力を誇るが、メノの機体であるブリティイブライトの背部の大型ミサイルBIGSIOUX<sup>別名核ミサ</sup>の威力はかなりのモノである。発射から着弾までの速度こそ遅いが、スピリダスを落とすには十分過ぎる威力を持つ。

ドオオオオオオオオオオン!

サイファー《ミサイル全弾命中!》

ついに、スピリダスの高度が落ち始めた。

スピリダス艦内

ビー!!ビー!!ビー!!

「艦長、駄目です!高度保てません!」

「エンジンにも被弾!このままでは海面に落ちます!」

艦長「ここまでか・・・だが、我々の仕事の半分は成し遂げた、奴等に通信をつなげ

ろ!」

「はっ!」

艦長「くくくく・・・はははははは!」

—

—

—

スピリダスが大西洋に落ち始めた頃にサイファー達に彼らの通信が……その内容とは……

サイファー《ん?通信?》

ザザザザ

《聞こえるか、企業の狗共……》

真琴《な……に……?この……通……信》

《我々の役目は終わった……お前達は……知らんだろう……我々は陽動だ!》

サイファー《何!》

ピクシー《どういう事だ!》

《既に本隊が動いた!我々は囷なのだよ!》

スピリダスの本当の役目、それはガラム達を誘き寄せ囷だったのだ。それもこの巨大な航空要塞という代物を使って……

イーリス《囷?ふざけてんのか!》

ナターシャ《落ち着いてイーリイ、冷静になりなさい!》

《ふははは!せいぜい吠えろ、今頃本隊はIS学園に向かっているだろう!はははははは!》

マギー《学園に!》



真琴 《狙……いは……アク……アビツ……トの……大……帝……なの……  
？そ……れと……も……？》

《はははははは！アーハハハハハハハ！ジイイイイイイク！ハアアアイル！》

艦長は目的の内容を言わず、スピリダスは崩壊しながら海面に墜落。艦長以下乗員全員はそのまま海の藻屑になった。

サイファア 《クソつたれ！》

ピクシー 《学園が……マズイぞ！》

|

|

|

一方、当のIS学園では……

ヴァルター 「ふはははは！ゴリアテは全て墮ちよ、ソル<sup>太陽</sup>テイ<sup>神</sup>オス・カテ<sup>大聖堂</sup>ラル！」  
ゴゴゴゴゴ！

エンペラー 《全機攻撃開始い！》

ズトオオオオオオオオン！

学園に向かっていた無人機ゴリアテ45機が、<sup>我らのコジマキチガイ大帝様</sup>ヴァルター・クリューガーが学園から

かなり離れた距離で迎撃していた。

ヴァルター「奴等め・・・このような兵器を持ち出すとはな・・・」

何故ヴァルター達が迎撃しているのかというと、企業連の衛星から太平洋上で国籍不明のタンカーを発見。敵のL C A Cとゴリアテが学園に向けて移動したという情報が企業連からもたらされ、緊急戦闘配備に移った。

ヴァルターが動いている頃、別ルートから侵攻してきた敵のL C A C 20隻が学園エアクッション型揚陸艇に向かっていた。学園側の専用機部隊が直ちに迎撃態勢に移行。その後数十分の間にL C A C部隊の拿捕に成功、学園側の損害もごく軽微だった。

それとは別に、灰色の男達の動きに呼応して韓国軍と北朝鮮軍、さらに中国軍の艦隊が日本に侵攻してきた。

だが、日本にはある切り札を持っていた。

《震電隊、全機発進!》

《震電隊出るぞ! 続け!》

その機体こそ、有澤重工を始めとした日本の企業が開発した新型支援戦闘機F-3”

震電Ⅱ”である。

震電Ⅱとは日本国の特殊な運用環境に対応する為に開発されたマルチロール戦闘機

で、領域侵犯をした敵艦艇に対する対艦攻撃や上陸した敵部隊への迎撃、さらには山岳部での防衛任務の大役を担う日本国の防衛の要である。

既に震電Ⅱは自衛隊全てに860機の実戦配備が完了しており、さらには日本製の量産型IS打鉄と海上自衛隊艦艇の共同運用も想定された最新鋭機だ。

小松基地所属第303飛行隊

《EAGLEから全機、敵艦隊視認、攻撃準備完了!》

《こちらIS部隊第1戦闘隊、攻撃準備完了しました!》

我らの祖国と人々

元々日本防衛の為に造られた震電だが、一度女尊男卑というつまらない風潮の為に計画が潰されかけた上に「男性自衛隊員に対する差別」のせいで自衛隊員の半数以上が解雇の危機に陥った。

それを止める為に動いたのは他でもない女性自衛官達やIS搭乗者全員である。

彼女達はSNSやネットを駆使して「男性自衛官達は私達日本の誇りです!つまらない風潮に流されないで!」という記事を出した。

チワワのように騒いだ

過激派の女性権利団体や左翼議員達は反発したが国民の大多数は称賛するという事態となった。

その女性自衛官達の行動に、日本国首相の大高弥三郎が感銘を受けて国内の女尊男卑の風潮は彼の「女性隊員達の勇氣ある行動」を称賛と差別に対する演説とフェミニスト

の過激派達が逮捕された事によって消滅寸前という状態となった。

そして護国の剣達は空へと舞い上がった。

《こちら司令部、企業連のAFステイグロが国土防衛の為に力を貸してくれる。ステイグロの支援に当たりつつ、敵艦隊の撃滅に尽力せよ!》

その後数時間以上に渡ってようやく韓国軍と北朝鮮軍、中国軍は日本の領海と領空から撤退した。

3国の損害はかなりのもので、空母及び強襲揚陸艦全てが大破、駆逐艦と巡洋艦はステイグロと震電IIによって大半が撃沈、上陸部隊も陸上自衛隊による活躍で本土侵入は阻止された。

韓国・北朝鮮政府は日本に対し抗議したが、日本に対する侵攻はインターネットによつて世界中に晒され、さらにアメリカ合衆国及び企業連は韓国・北朝鮮に対し容赦のない経済制裁を行った。

特に北朝鮮は追加の経済制裁によって大規模なクーデターが発生した・・・が、それはいずれ話すとして・・・

今回の争乱を引き起こした灰色の男達の所在がいに判明した。

場所はアルゼンチンのアンデス山脈付近、そこに彼らの本拠地があるという。

## 突入!アンデス要塞!

灰色の男達の所在が判明した翌日、学園からある機体が音速で飛び立った。

コジマ大帝ことヴァルター・クリューガーとその愛機、コジマ・エンペラーである。

エンペラー《良いのか?主だけで彼の地に向かうというのは。》

ヴァルター「なーに、学園と企業連にも了承は取り付けてあるし、この  
ヴァンガード・オーバード・ブースター

V O B の性能も試したかったところさ。」

時速2000kmを出す巨大な背部ブースター、ヴァンガード・オーバード・ブースター。GA傘下企業の1つであるクーガーが開発した超長距離用大型ブースターである。といつても試作機故に主翼や尾翼があるわけでもなく、ただ推力にモノをいわせて無理矢理飛ばすというあまりにリスキーな装備な代物である。

ヴァルター「どのみち待つなんて私の性に合わん。動く時は動かねばならんからな。それに……」

エンペラー《それに?なんだ主よ。》

ヴァルター「シャルルや恭一少年を連れて行く訳にはいかん。シャルルはともかく、恭一少年はまだ15だ。人殺しの十字架を彼らに背負わせる事は私自身が許さん。背



両政府から領海・領空の進入の承諾を得ており、ヴァルターを阻む然したる障害はなかった。

VOBをパージした後、灰色の男達の本拠地であるアンデス山脈付近の基地までに到達しかけたその時である。

エンペラー《主よ、敵のお出ました》

ヴァルター「見えている。ゴリアテが15機か・・・大した数ではない。」

敵の機動兵器、ゴリアテが15機出現した。先の戦いに壊滅した機関が作った機動兵器で機体の中には生体コアユニットとして造られたクローン人間を搭載している。

ヴァルター「では、攻撃開始と・・・」

接近してきたゴリアテに対し攻撃をするまさにその瞬間!

エンペラー《後方から高熱源反応!来るぞ!》

ヴァルター「!」

ビイイイイイイイ!

後方から放たれた5本の光、その光はヴァルターの眼前にいたゴリアテ部隊の半数を焼き払った。

ブレイズ《こちらラーズグリーンズ隊、貴方の突入支援の為に来ました!》

ヴァルター「ほう、ラーズグリーンズか・・・助かる」



企業連直属戦闘機部隊、ラーズグリーズ隊がヴァルターの基地突入の支援に参戦したのだ。

チヨツパー《連中は俺達が惹き付けるから、あとは頼んだぜ！》  
ヴァルター「感謝する、君らの武運を祈る！」

ラーズグリーズ隊がゴリアテを惹き付けている間に、ヴァルターは敵要塞のゴリアテ発進口から突入、地下要塞内部の侵入に成功した。

マイントイフェル「ふふふ．．．来るが良いヴァルター・クリューガー、ここが貴様の墓場だ——ふはははははははははは！」

複数の培養槽を眺めながら高笑いするワルター・G・E・マイントイフェル、そしてマイントイフェルの後ろにいる人物．．．

死んだ筈の第三帝国總統

アドルフ・ヒトラーその人がマイントイフェルと培養槽を鋭い眼差しで見据えていた。まるで全てが終わる事を予見しているかのようにな．．．

一方、侵入したヴァルターは発進口から機体の兵装を替えて地下へと降とっとうより落下下していた。何度か発進中の敵兵器と遭遇したが、アサルトアーマーいわゆるコジマ大爆発で焼き払った。

ヴァルター「コジマの♪緑は♪良い緑♪」

エンペラー《我らがバカ共を♪コジマ色に染めてあげてやんよ♪》

ヴァルター「漲ってきたぞおお！」

『☆H A ☆H A ☆H A ☆H A ☆H A ☆H A ☆H A ☆』

・・・どうやら色々と漲ってきたようであるがそれはさておき・・・

ズウウウウウウウウ!

着地と同時に地下基地の深部に到達した。

「動くな！」

そしてヴァルターは敵の兵士100名とゴリアテ12機に囲まれた。

ヴァルター「ほう、たかたが100人程度とは・・・片腹痛いな」

エンペラー《なら我が主よ、我が偉大なる主よ!この者達を屠る我らの最強の切り札を使おうではないか!》

ヴァルター「ふふふふ——貴様達よ、我が真なるコジマの力をご覧あれ！」

「う、撃てえええええ！」

——System 00 startup——  
敵兵達が攻撃しようとしたその瞬間、強烈な緑色の光がヴァルター達を包み込んだ。

「——！」  
そしてその光が晴れたその時、敵兵達は全員その姿に未知の恐怖を覚えた。

それはアクアビットとレイレナードが最初に造り上げ、テスト中に何人もの死者を出した故に封印されたが、唯一ヴァルターのみが完全に使いこなすことが出来る最強最悪の切り札、ネクストISすらも超える巨大な機体を持つプロトタイプネクストIS——それが……

ヴァルター「待たせたな、諸君——さあ、地獄の始まりだ。」

最強最悪のネクスト  
00—ARETHAだ。兵士達はもとより、ゴリアテですらその未知なる恐怖その物と言える機体を前に動くことすら出来ず、ただ立ちすくむだけだった。

ヴァルター「なんだ？ 攻撃しないなら私から行くぞ！」

ダララララララララ！

「がつー」「ぐえー！」

ARETHAになってから僅か数分も立たないうちに殺戮が始まった。右腕の5連装ガトリングが火を吹き、兵士達の大半が肉塊へと変わる。ゴリアテもビームを放った



ブレイズ《っ！全機、高度10000以上あげる！急げ！》

そのメッセージを見た瞬間、ラーズグリーズ隊は有無を言わずに最大速度で上昇した。

敵部隊の追撃を振り切って高度を上げたラーズグリーズ、そして・・・

ドオオオオオン！

爆発——1発2発ではない。10発の巡航ミサイルの爆発が敵を襲い、爆発した後もばら撒かれた金属片が・・・さしずめ豪雨の如く降り注ぎ地上の敵部隊や施設を破壊する。

放たれたそのミサイルとはレイレナード空中艦隊旗艦、AFアイガイオンから放たれた長距離散弾巡航ミサイル《ニンバス》による長距離攻撃である。

ラーズグリーズ隊が半数まで撃滅した際に複数のマークードローンが目的地である敵要塞付近に到達、マークードローンから送られた座標と敵戦力のデータを受信、味方部隊を巻き込まないように且つ敵に通信傍受されないように暗号化通信を送り、退避し始めた頃合いに発射したのだ。

スノー《あれがニンバス・・・》

ナガセ《凄い・・・》

ラーズグリーズ隊はアイガイオン率いる空中艦隊の凄さにただ圧倒するしかなかった

た。

パステルナーク《こちらシユトリゴンリーダー、ラーズグリーズ隊聞こえるか!》と、そこへシユトリゴン隊長であるイリヤ・パステルナークから通信が入った。

ブレイズ《こちらラーズグリーズリーダー、ブレイズ。何か?》

パステルナーク《良いか、良く聞け!ナチ公の連中、核弾頭を所持しているという情報が企業連情報部からついさつき届いた!》

戦争はまだ続く・・・

## アヴァロンダム急襲

パステルナーク《良いか、良く聞け！ナチ公の連中、核弾頭を所持しているという情報は今企業連情報部から今入った！それもMIRVが12発だ！》

急報だった、それはナチス残党が核弾頭を・・・それもMIRV方式の核弾頭、12発を所持しているという事が判明した。

ナガセ《な・・・！！》

ブレイズ《ちっ！奴等め、ふざけた真似を！》

あまりの事態にラーズグリーズ隊リーダーのブレイズも思わず舌打ちしてしまった。

パステルナーク《核弾頭がある場所の座標データを送る！ここはレイレナード空中艦隊と我々が請け負う！》

送られた座標データを確認するラーズグリーズ達、その場所とは・・・

アルヴィン《おいおい、ここって・・・》

グリム《アヴァロンダムじゃないですか！》

ガイアナとブラジルの国境付近に建設された巨大ダム、アヴァロンダムにその核弾頭があるというのだ。

スノー《じゃあアヴァロンダムは核弾頭の発射基地だと言う訳か!》

そう、そのアヴァロンダムはナチス残党がダムに偽装して建設された巨大なミサイル発射基地なのだ。

ナガセ《ただどこからじゃ距離が有りすぎる!》

アルゼンチンからガイアナ国境付近までの距離は約4800kmあり、搭載されている予備だけではあまりにも遠い。

パステルナーク《心配するな、空中給油機と空中管制機を手配しておいた。それと武器弾薬に関してだが・・・》

???《サンダーヘッドからラーズグリーズ隊へ、弾薬の転送の準備が完了した。》

ブレイズ《その声は・・・!》

アルヴィン《げ!サンダー石頭ヘッド!》

サンダーヘッド《ラーズグリーズ3私語を慎め。それと私を変な名前で呼ぶな。》

パステルナークの通信に割り込んだのは、かつて所属していた部隊の空中管制機<sup>A W A C S</sup>で元

同僚<sup>通称 石頭野郎</sup>サンダーヘッドだ。

サンダーヘッド《各機、デイスプレイの転送キーを押せ。

ラーズグリーズの出自は明かすことは出来ないが、彼らの秘密を知っているのはアメリカ合衆国大統領と企業連最高評議会メンバー、そしてAWACSコールサイン《サン



ダーヘッド》だけである。

そのサンダーヘッドが何故来たのか、事は数時間前に遡る。

ナチス残党の拠点が判明しヴァルターが出撃した後、企業連最高評議会はアメリカ合衆国大統領に空中管制機と空中給油機の手配を要請。空中管制機に関してはラーズグリーズを良く知っているサンダーヘッドを割り当て、企業連最高評議会及び大統領がラーズグリーズ隊に対し出撃命令を下した。

そしてつい先ほど、企業情報部のエージェント《オータム》と《スコール・ミューゼル》の威力偵察によってアヴァロンダムが核弾頭発射基地であると判明した次第である。

ブレイズ《こちらブレイズ、弾薬の転送完了を確認した。》

量子化された必要な武器弾薬類は、ADF-01に全て転送された。これにより戦闘の継続が可能となった。

サンダーヘッド《こちらでも確認した。ラーズグリーズ隊、これより私の指揮下に入ってもらおう。》

ブレイズ《了解した、サンダーヘッド・・・またよろしく頼む、戦友》

サンダーヘッド《・・・こちらこそよろしく頼む。各機に告ぐ。指定の地点で給油が

終わり次第アヴァロンダムへ急行、敵施設を攻撃せよ。》

ちよつとしたやり取りの後、ラーズグリーンズとサンダーヘッドはアヴァロンダムに急行した。

—  
—  
—

ガイアナ国境付近 アヴァロンダム

給油を終えたラーズグリーンズは既にアヴァロンダムからおよそ20km付近まで近づいていた。

サンダーヘッド《こちらサンダーヘッド。まもなく敵勢力圏内に到達する。到達次第敵勢力の排除及びびコントロールセンターを無力化せよ!》

ブレイズ《こちらラーズグリーンズ1了解》

ナガセ《ラーズグリーンズ2了解》

アルヴェイン《こちらラーズグリーンズ3了解した》

グリム《ラーズグリーンズ4了解》

スノー《こちらラーズグリーンズ5了解》

サンダーヘッドの指揮下に入ったラーズグリーンズ隊は既に戦闘態勢に移行していた。

と、通信が入って来た。

スコール《こちら企業情報部 I S 部隊のスコール・ミューゼル、応答願います。》  
先行していたスコールからだ。

サンダーヘッド《こちらサンダーヘッド。エージェントミューゼル、敵勢力の数は？》  
スコール《対空兵器多数、敵は例の機動兵器と戦闘機を繰り出してきてるわ！》

オータム《後退しているが持久戦になると流石にこつちが持たねえ！早く来てくれ！》

先行していた二人は 2 対多数の戦いを強いられていた。偵察を終え、後退している最中に多数の敵戦闘機部隊と機動兵器部隊が二人に追撃を仕掛けて来た。

第 2 世代型 I S アラクネ、第 3 世代型 I S 黄金ゴールド・ドーンの夜明けの火力を以てしても数の優劣

——特に機動兵器ゴリアテが多数という劣勢を覆すことは流石に不可能だ。

サンダーヘッド《こちらサンダーヘッド、ラーズグリーズ隊がそちらに向かっている。持ちこたえてくれ。》

オータム《ラーズグリーズが！よっしゃ！持ちこたえてやるよ！》

スコール《了解しました。貴方達が来るまでの時間稼ぎの仕事をするなら簡単ね。》

劣勢ではあるが、ラーズグリーズ来援の報を聞いた瞬間二人の士気が上がる。企業連最精鋭の 4 つの戦闘機部隊——その中でもラーズグリーズ隊は五人で一個飛行大隊に

匹敵する。

サンダーヘッド《全機急げ、彼女達を絶対死なせるな!》

ラーズグリーズが動く時、それは大きな戦いがある時・・・そしてその戦いを終わらせる時だ。

アルヴィン《あたぼうよ!美人のねーちゃん死なせたら夢見が悪いぜ!》

サンダーヘッド《ラーズグリーズ3、私語を慎め・・・と言いたいところだが、全くその通りだ》

アルヴィン《珍しいねえ、あんたと気が合うなんてな》

アヴァロンダムに漆黒の翼を持つ戦乙女、戦いを終わらせる者ラーズグリーズが舞い降りようとしてい

た。

ブレイズ《見えた!敵機多数、味方2機交戦中!》

サンダーヘッド《こちらサンダーヘッド、交戦を許可する!攻撃開始!》

ナガセ《エッジ交戦!》

アルヴィン《チョッパ―交戦!》

グリム《アーチャー交戦!》

スノー《ソーズマン交戦!》

ブレイズ《ブレイズ交戦!全機戦略レーザー兵装TLS照射!》

ビイイイイイイイイ!

到達と同時にADF-01の機首に搭載された戦略レーザー兵装、TLSがゴリアテおよそ12機が風ぎ払われた。

スコール《ラーズグリーズ!来たのね!》

オータム《行くぜえ、あたしにも負けてられねえ!反撃だ!》

ラーズグリーズが到達した時、二人も反撃態勢に移った。偵察後の撤退戦を強いられていた故にラーズグリーズの来援は彼女達にとつて最高の援軍であった。

《ドラグーンーからシャンツエ、敵戦闘機部隊確認!黒い機体・・・あのカラーリングは!》

敵戦闘機の1機は黒い翼を持つ戦乙女ラーズグリーズの姿を見た。しかし・・・

《な、があ!》

彼を始めとした戦闘機部隊はラーズグリーズの姿を二度と見る事はなかった。

グリム《敵戦闘機撃墜!》

サンダーヘッド《こちらサンダーヘッド、全機聞け。敵コントロールセンターはダム  
の底だ。》

スコール《やはりダムの中ね》

サンダーヘッド《隔壁が閉鎖される前にダム内に侵入し3ヶ所のコントロールセン

ターを破壊せよ！》

スノー《侵入しろとかかなり無茶な任務だな！》

ダムのあるコントロールセンターの破壊任務、戦闘機でその任務を実行する事はかなり困難な事だ。しかし……

ブレイズ《俺がやる。》

アルヴィン《おいブービー、いくらなんでも無茶だ！》

ラーズグリーズリーダー《ブレイズ》が自ら志願した。狭い空間を飛ぶという明らか  
に自殺行為な任務だ。だが、ラーズグリーズ隊には二人の味方がいる。

スコール《私達も支援するわ！》

オータム《道なら開けてやるぜ！》

オータムが先行し、閉じ始めようとした隔壁にレーザーを撃ち込む、そして

オータム《おんどりやああああああ！》

8本の装甲脚をと自らの腕を駆使して無理矢理隔壁を抉じ開け、剥がし……

バキバキバキバキバキバキ……

アルヴィン《おいおいマジかよ！》

オータム《ぬううううう……だらっしやああああ！》

がしやあああああん！

機体の数倍以上ある隔壁を投げ捨てた。一見華奢に見える機体だがそこはIS、機体の剛性を嘗めてはいけけない。とはいえ、かなり負担を掛けたようである。装甲脚のほとんどが機能しなくなった。

スコール《よくやったわオータム、後は私達に任せて！》

ブレイズ《こちらブレイズ、ダム内に突入する！》

オータム、ブレイズがダム内に突入した。しかし彼らの戦いはまだ中盤であった。

## ACES and ZERO

オータムによって開かれたアヴァロンダムへの道、スコールとブレイズのADF―0  
1が突入した。

ナガセ《ブレイズがダムに入った!》

グリム《っ! 敵機が中に!》

スノー《行かせるかよ!》

アルヴェイン《そーら、食らっときな!》

シュバアアアアア!

ゴリアテ《!》

ドオオオオオン!

ゴリアテが数機侵入しようとしたが、ファルケンのミサイルによって阻止された。

ナガセ《ブレイズ・・・無事に帰ってきて・・・》

残ったラーズグリーンズ隊のメンバー達はブレイズの帰還を願うしかない。彼らに出  
来るのは敵の掃討とブレイズの帰還を祈るだけだった。



ブレイズ（思っていた以上に狭い……まるで壁が迫ってくるようだ。サンダーヘッドも無茶を言う！）

スコール《邪魔よ、沈みなさい！》

グシャアアアアアアアア！

ブレイズ《FOX2！》

シユバアアアアアアアア！

ドオオオオオオン！

サンダーヘッド《コントロールセンター基目破壊！》

心の中で愚痴をこぼすものの、ブレイズとスコールはコントロールセンターを1基破壊。スコールの専用機黄ゴールド金デン夜・ドーン明けの武装の一つである近接兵装の巨大な尾と両肩の武装、プロミネンスと呼ばれる炎の鞭で敵機動兵器ゴリアテを切り裂き、ブレイズがミサイルを叩き込む。

即席コンビであるにも関わらず連携が出来るのはスコールの的確な支援とブレイズ自身の技量が高いという証左である事は疑いようもない。

ブレイズ《2基目捕捉、FOX2!》

シユバアアアアア!

ドオオオオオン!

サンダーヘッド《2基目破壊!残り1基!》

狭い空間を縦横無尽に駆け巡る戦闘機の姿はまるで悪魔か狂人か・・・ダム内にいた敵兵士達はその姿に畏怖せざるを得なかった。

そしてまたゴリアテ数機がまたブレイズ達に立ちはだかる。

ブレイズ《またか!》

ダダダダダダダ!

スコール《邪魔を・・・するなあああ!》

がしやああああん!

ドオオオオオン!

阻むゴリアテ数機をスコールが叩き潰し、ブレイズが機銃で蜂の巣にしていく。

ブレイズ《見えた!FOX2!》

シユバアアアアア!

ドオオオオオン!

サンダーヘッド《全てのコントロールセンターの破壊を確認！》  
チヨツパー《やったなブービー！》

グリム《さすがです、隊長！》

ブレイズが全てのコントロールセンターを破壊し、スコールと共にダムから離脱した。だが……

ブレイズ（なんだ……このむずむずする感覚は？）

コントロールセンターを破壊したにも関わらずブレイズが感じる違和感……

狭い空間を飛び抜けたとはいえあまりにも簡単に終わってしまった。ブレイズの疑念は強まるばかりだ。

そしてその違和感の正体とは……

《ミサイル発射カウントダウン1分前》

ナガセ《カウントダウンが始まった？一体何が！》

サンダーヘッド《サンダーヘッドから全機へ、アンノウン複数急速接近！ブレイク！ブレイク！》

シユバアアアアアア！

スノー《ミサイル来るぞ！》

ナガセ《全機回避！》

ビー！ビー！ビー！

多数のミサイルが接近。ラーズグリーズとスコール達のミサイルアラートが鳴り響く。

ブレイズ《やはり簡単にいかんな・・・》

作戦は簡単に終わる訳がなかった。ミサイルを回避しつつもブレイズの疑念は確信に変わる。

《我々の戦争は終わらない、ラーズグリーズ・・・いや、企業連の犬ウォードツグめ！》  
グリム《この声は・・・！》

チヨツパー《おいおい、ハミルトンのカス野郎じゃないか》

アレン・C・ハミルトン——彼は元アメリカ空軍少佐でブレイズ達の元上官だった男。アントン・カプチエンコと同様国家に対する反逆をした卑怯者である。そんな男がブレイズ達の前に立ちはだかる。

サンダーヘッド《ダメだ、核サイロの再起動を確認した！》

スコール《あの戦闘機ね・・・！》

オータム《んにやろう・・・！》

核サイロが再起動した。本当の戦いはこれからである。

サンダーヘッド《全機作戦は続行、こちらの分析が完了するまで持ちこたえてくれ！》

解き放たれようとしている死の矢、そして殺意の刃が今、ラーズグリーンズ達に向けられようとしていた。

一方アンデス要塞周辺では・・・

パステルナーク《ターゲットインサイト・・・スラツシュウ!》

ドシュウ!

ドオオオオオン!

パステルナーク《敵機撃墜!》

《ああ!ジャン・ルイがやられた!》

《落ち着けジーン!指揮を引き継げ!》

レイレナード空中艦隊とシユトリゴン隊、そしてレイレナード最精鋭ネクスト《紅椿・真改》と《ヴァイス・ローゼ》による猛攻が続いていた。

シユトリゴン隊とガルーダ隊の専用戦闘機、CFA-44の最大の特徴は3箇所ウエポンベイに内装された専用兵装にある。

一度に12発小型ミサイルが発射されるADMM、長射程と高弾速を誇る汎用レールガンのELM、電子戦用のECMポッドの3つである。

シュトリゴン隊の隊員、ガルーダ隊は好んでADMを使うが、シュトリゴン隊隊長パステルナークは敢えてELMを使用している。

このELM、直撃すれば戦闘機は勿論の事ISの装甲をも貫ける程の破壊力を持つ。《アイガイオンから全機、ニンバスの第3波を発射する。爆発範囲内の味方は退避せよ。》

パステルナーク《シュトリゴンリーダー了解。全機、ニンバス第3波来るぞ!》

箒《クロエ!》

クロエ《ええ!》

シュトリゴン隊と箒達は最大速度で高度5000フィート以上に上昇。敵も追撃をしてきたが、発射されたニンバス8発が炸裂した。

パステルナーク《5, 4, 3, 2, 1...炸裂、今!》

ドオオオオオン!

《こちらランサー3、味方の大は——》

生き残っていた敵戦闘機数機もニンバスからばら撒かれた金属片と爆風に巻き込まれ壊滅。敵の地上部隊もニンバスによってすでに壊滅状態に陥っていた。

《ゴアアアアア！》

辛くも生き残っていたゴリアテ数機がずたぼろになりながらも追撃を仕掛けてきた。  
しかし――

箒《チエストオオオオオ！》

ズバアアアアアア！

箒・S・ボーデヴィツヒが駆る《紅椿・真改》が太陽を背にゴリアテ目掛けて急降下、  
両腕に携えたレーザーブレード07―MOONLIGHT<sup>光</sup>がゴリアテを頭から真つ二  
つに引き裂いた。

クロエ《箒！》

ダダダダダダ！

敵を切り裂いた箒の隙を突こうとゴリアテが近づいてきたが、電子戦装備から射撃戦  
用に換装したクロエの《ヴァイス・ローゼ》のXC<sup>四</sup>G―B<sup>チエ</sup>050<sup>インガン</sup>の斉射でゴリアテが蜂  
の巣にしていく。

箒《クロエ済まない！》

パステルナーク《無茶するなよ、箒嬢ちゃん。》

少し無茶した箒を窘めるイリヤ。とはいえ、太陽を背にするのは理にかなった戦術で  
ある。

ダリオ《隊長、敵の大多数の組織的抵抗は無くなりつつあります。掃討戦に移りますか？》

パステルナーク《いや、これ以上の戦闘は無用だ。一度アイガイオンに戻り補給をしよう。》

既に敵の戦力のほとんどが壊滅しており、これ以上の戦闘は無用だとパステルナークは判断した。撤収しようとした瞬間、急報が入った。

《アイガイオンからシュトリゴン隊全機へ！アヴァロンダムからミサイルが発射された！》

パステルナーク《何っ！》

箒《まさか……！》

クロエ《そんな……》

！

！

！

《カウントダウン5秒前、4, 3, 2, 1——発射》

ゴゴゴゴゴゴ！シュバアアアアア！

ナガセ《核が！》



ブレイズ《くそっ！》

核は放たれた。急変する事態にラーズグリース達は・・・

戦いはまだ続く。

## ACES and ZERO—act 2—

ハミルトン《はははははははは！怒りの矢は放たれた！我々の核が新たな戦争の呼び水となり、世界はやがて破滅に至り全てが「ゼロ」へと戻る！》

アルヴィン《ふざけた事を！》

ハミルトン《ISも！企業連も！この世界も！全て死ねば良い！》

核が放たれた。一発だけとはいえ発射されたのがMIRV方式の核ミサイルだ。もし再突入されたら、内蔵された小型核弾頭が複数の地上目標を破壊する。これが企業連や政府の重要施設：：それも政府の中枢や首都だった場合、新たな戦禍の呼び水になってしまう。

さらにハミルトン率いる戦闘機8機がラースグリーズ達に立ちはだかる。

ブレイズ《全機へ・・・奴を仕留めるぞ。》

ナガセ《エッジ了解！》

アルヴィン《こちらチョッパ、了解したぜブービー！》

グリム《アーチャー了解！》

スノー《ソーズマン了解！》

スコール《スコール了解!》

オータム《こちらオータム、今やれる事に全力を尽くすぜ!》

しかし——それでも彼等は立ち向かう。

いつ死ぬかわからない・・・だが彼等は戦闘機乗りとしての自らの誇りと大勢の命を守るために戦う。ただそれ以外彼等には必要ない。

サンダーヘッド《こちらAWACS、分析完了。聞けラーズグリーズ隊!》

そこへサンダーヘッドからの通信が入ってきた。

サンダーヘッド《敵機からミサイルのコントロールの信号を確認した!奴がミサイルの鍵を握っている!》

発射されたミサイルのコントロール信号をハミルトンが握っているのがわかった。

サンダーヘッド《それと機体の解析も出来た!敵機のコードネームは「モルガン」、あの機体はECM防御で守られている!》

《サンダーヘッドからラーズグリーズ及びIS部隊へ——奴等を止める事が出来るのは君達だけだ!ラーズグリーズ、君達の幸運を祈る!》

サンダーヘッドの激励の通信と同時に最後の作戦が開始される。ラーズグリーズ達の最大の戦いが今、幕を切って落とされた。

一方その頃、アメリカからある機体が打ち上げられようとしていた。

《ライルストラーク発射35秒前、VOB点火開始!》

オーメル、レイレナード、ラインアーク、ローゼンタール、BFF、MSACインターナショナルの6つの企業が建造した新型ネクストIS、ライルストラークである。

この機体の最大の特徴はオーメルの新型ネクスト”TYPE—LAHIRE”のコアを使用している事だ。このコアは文字通り人間離れた姿をしている事。頭部から後ろ側についていたメインアームの他にコア側にある人間用の専用サブアームがある。

《アンビリカルケーブル切り離せ!VOB点火!》

《ライルストラーク発射15秒前!》

その機体に与えられたミッシェンはアヴァロンダムから放たれた核ミサイルの破壊である。ライルストラークをVOBで成層圏まで打ち上げ、パージ後最大速度で核ミサイルに向かう手筈になっている。

そして乗り込むのは企業連情報部エージェントの一人、ミア・アイゼンバーグである。自ら危険を承知でこの任務に志願した誇り高い女性である。

《ライルストラーク発射5秒前、4、3、2、1!》

ミーア「ライルストラーク、行きます!」

ゴオオオオオオオオオオ!

核ミサイル破壊という任務を携え企業連の矢は打ち上げられた。

そしてある国のIS部隊が企業連の味方部隊としてガイアナのアヴァロンダムに向かっていた・・・

—

—

—

アイリス《近衛隊各員、目標地点までもう直ぐじや!空の勇者たるラーズグリーズ達を我らで守り参らせよ!彼の者達を死なせるでないぞ、気を引き締めよ!》

《承知しました殿下!》

向かっている部隊——すなわちルクーゼンブルグ公国第七王女アイリス・トワイライト・ルクーゼンブルグとその愛機である第七王女、セブンスプリンセスジブリル・エミユレル率いるルクーゼンブルグ公国最強のIS近衛部隊《インペリアル・ナイツ》の9機がラーズグリーズ達の為に向かっていた。

アイリス王女とジブリル・エミユレルの専用機《セブンス・プリンセス》と《イン

ペリアル・ナイト》はアクアビット社長である束が自ら手掛け、献上された第4世代機で、威容と美しさを兼ね備えた最強たるにふさわしい機体である。

ジブリル《ナイトリーダー》から近衛隊各員、状況報告！》

《ナイト2スタンバイ！》

《ナイト3からナイト7スタンバイ！》

《ナイト8スタンバイ！》

そしてインペリアル・ナイト団員の為に建造された機体はローゼンタールの象徴と呼べる機体”TYPE—HOGIRE”をベースにした白色の機体”<sup>高貴なる者の責務</sup>ノブレス・オブリージユ”の近衛騎士団員7機、そして騎士団長機インペリアル・ナイトの計8機で編成された公国最強の部隊である。

彼女達がガイアナに向かっている理由は2つある。1つ

は国内外に対する一種のアピールだ。欧州、特にドイツやルクセンブルグ等の欧州各国はナチス関連にはかなり敏感であり、王女自ら出撃しラーズグリーズ達と共にナチスを打倒する事で欧州のナチスに対する不安を払拭する狙いがある。

2つ目の理由は——

アイリス（妾は王族ではなく一人の人間として・・・彼等と一緒に大空を飛びたい！この蒼き美しい空を！）

同じ空を飛ぶ者として、同じ戦士としての誇りを持つ者として・・・彼女達は立ち上がったのだ。

アイリス《神々よ、我らの戦いをご照覧あれ！》

それぞれの思いが交わりし時、物語は一気に動きだす！

—  
—  
—

## ACES and ZERO—act 3—

アイリス率いるインペリアル・ナイツがアヴァロンダムに移動している頃、ミーア・アイゼンバーグはVOBによる超高速で核ミサイル向かっていた。

ミーア（高度14000・・・15000・・・くっ・・・強烈なGが！）

上昇するにつれ強烈なGがミーアに襲いかかる。

ミーアと愛機ライルストラークが雲を突き抜け高度20000に到達した時、ついに見えた。

ミーア《見えた、核ミサイル捕捉！VOBパージ！》

ナチス残党が放った核ミサイルを捕捉、それと同時にミーアはVOBをパージする。



ミーア《最大戦速、行きますす！》

ギユオオオオオ・・・ヒイイイイイイン！

ミーア《ぐつ・・・なんのこれしきい！》

オーバード・ブーストの加速のGがミーアの身体に襲いかかる。速度こそVOBに劣るとは謂え、強烈なGには変わり無い。

ミーア《ターゲット・・・ロックオン・・・行けえええええええええ！》

ダダダダダ！シユバアアアアア！

ついにミサイルに接近、ミーアは直ぐ様全兵装を展開、一斉射撃を開始する。

ドオオオオオオオオ！

全弾がロケットブースターに命中、間もなく再突入体にも誘爆するだろう。

ミーア《全弾命中！これより離脱する！》

ミーアが最大速度で離脱してからおよそ数秒後に核ミサイルは爆発。

ドオオオオオオオオオオン！

高高度核爆発による強烈な衝撃波とEMP電磁パルスがミーアとライルストラークを襲う。いくらISとはいえ、この衝撃と電磁パルスを耐える事自体至難、いや……むしろ生還できるのかどうかすら怪しい。

ミーア「ぐううううううう！」

果たしてミーアは生還できるだろうか……

時系列は核ミサイルが発射された時に戻る。

アヴァロンダムではラーズグリーズ隊とハミルトン率いる戦闘機部隊との戦いは苛烈を極めていた。

ハミルトン《ふはははは！もうすぐだ、もうすぐ我々の勝利の時が訪れる！》

ブレイズ《貴様達の好きにさせるか！お前達みたいな連中がこの世界に居ては》

チョッパー《ブービー！2時の方向からまた敵機だ！》

ブレイズ《くっ！》

核が発射され、さらには敵の増援。ラーズグリーズ達は勿論、スコール達も劣勢に立

たされる。

オータム《マズイ状況だぞ、スコール!》

スコール《わかってるわ!》

事態是最悪の向かうかと思われたまさにその時!

??? 「グラレヒトン・クラスター重力爆撃!」

10個ほどの黒い球体が敵戦闘機群と無人機動兵器群に着弾、直撃を受けた機体は着弾と同時に圧壊、回避できた機体も球体のエネルギーの余波で墜落していった。

ハミルトン《なんだ! 一体何が起きている!》

ハミルトンが驚くのも無理は無い。そう、攻撃をしたのは・・・

グリム《あれは！》

アイリス「悪逆無道な者達よ聞け！そして刮目せよ！我こそはルクーゼンブルク公国第七皇女アイリス・トワイライト・ルクーゼンブルク！ラーズグリーズ大空の勇者達を助ける為に馳せ参じた！」

ジブリル「雑魚は我々インペリアル・ナイツが相手をしよう・・・かかって来るが良  
い！」

アイリス率いるルクーゼンブルク公国の戦士達がラーズグリーズを助ける為に来たのだ！

アルヴィン《ありやあルクーゼンブルクの王女様じゃないか！》

ジブリル「騎士団よ、黒き勇者達を護れ！突撃！」

ジブリル「承知！インペリアル・ナイツ攻撃開始！全機我に続け！」

《イエスマム!》

アヴァロンダムでの戦闘はいよいよ最終局面を迎えようとしていた・・・と、その時である!

ドオオオオオオオオオオオオオオオオ!

《な・・・何!》

ハミルトン《馬鹿な・・・馬鹿な馬鹿な馬鹿な! そんな馬鹿な!》

ブレイズ《核が・・・爆発したのか》

企業連情報部員のミーア・アイゼンバーグが核ミサイルの破壊に成功したのだ！

ダダダダダダダダ！

《こちら第二小隊、裏側のゲートに到達！これより突入開始します！》

ハインツ「了解、敵部隊を排除しつつ目標に向かえ！」

一方、ドイツ国内でも黒兎大隊が行動を開始していた。ドイツとオランダの国境付近に灰色の男達の秘密研究所がある事が判明、その研究所の制圧の為に黒兎大隊が出動したのだ。

ハインツ「少佐」

クラリツサ「はっ！」

ハインツ「I S部隊の指揮を任せる。施設内の敵部隊を排除せよ！」

クラリツサ「了解しました！」

ハインツ「各隊も奮戦せよ、ここが正念場だ！気を引き締めて掛かれ！」

『J a w o h l ! h e r r O b e r s t ! 了解しました！中佐殿！』

かつて世界を混乱に陥れたドイツの汚点とも言える罪を贖う為、若き戦士達が今動き出した……